



ATND1061LK ATND1061DAN

ビームフォーミングアレイマイクロホン

取扱説明書
-本体編-

目次

安全上の注意	5
本製品について	5
電池について（赤外線リモコン）	6
設置上の注意	7
お手入れ	8
同梱品の確認	9
各部の名称と機能	11
マイクロホン	11
ATND1061LK	11
ATND1061DAN	12
インジケータ	13
赤外線リモコン	14
プリセットの変更方法	14
設置のしかた	16
在来天井への設置	16
天井に直接取り付ける場合	16
天井に埋め込む場合	21
グリッド天井への設置	28
天井に直接取り付ける場合	28
天井に埋め込む場合	33
VESA規格マウントでの設置	41
マイクロホンの取り外しかた	42
天井に直接取り付けている場合	42
天井に埋め込んで取り付けている場合	43
接続のしかた	45
システム構成例	45
ATND1061LK（1台のみ接続）	45
ATND1061LK（複数台接続）	46
ATND1061DAN（シングルケーブルモード）	47
ATND1061DAN（スプリットモード）	48
ATND1061DAN（複数台接続）	49
ATND1061DAN（シングルケーブルモード・アナログ入出力）	50
ユーロブロックコネクタの接続のしかた	50
GPI端子について	52
リセットボタンについて	53
ネットワークモードの確認	53
ネットワークリセット	53
ファクトリーリセット	54
Digital Microphone Managerについて	55

目次

Audio-Technica LINKについて	56
Dante Controllerについて (ATND1061DANのみ)	57
Danteチャンネルリスト	57
Input (Dante Transmitter)	57
Output (Dante Receiver)	57
ウェブリモートについて	58
ウェブリモートとは	58
Locateとは	58
推奨環境	58
ウェブリモートおよびLocateが動作するOS	58
ウェブリモート推奨ウェブブラウザ	58
ウェブリモートの事前準備	59
マイクロホンをコントロール機器と接続する	59
Locateをセットアップする	59
ウェブリモートの起動	60
Locateから起動する	60
IPアドレスを直接指定して起動する	60
Setting & Maintenance画面の基本操作	60
General (System Settings)	62
Device Name	62
LED Settings	62
Dimmer Settings	62
Network (System Settings)	62
DANTE Network Configuration (ATND1061DANのみ)	62
Dante & Audio Port Settings (ATND1061DANのみ)	63
IP Control & Web Remote Port Settings	63
Allow Discovery	63
IP Control Settings	64
Utilities (System Settings)	64
Firmware Update	64
Reset All Settings to Default	65
Audio (Install Settings)	66
Beam CHs	66
Analog Input	67
DSP Mode	67
Auto Mix CH	67
Analog Output	67
Voice Lift CH	67
Dante Tx#6 Signal (ATND1061DANのみ)	68
Camera	68

目次




Device	68
Talk Setting	68
Silent Setting	69
Camera Preset	69
Presets	69
Presets	69
プリセットを書き出す	69
プリセットを読み込む	70
Logging	72
System Info	72
ヘッダー部分について	72
エラー内容表示について	73
プリセットについて	74
プリセットを保存する	74
プリセットを呼び出す	75
機能一覧	76
トラブルシューティング	82
外形寸法図	86
ATND1061LK	86
ATND1061DAN	87
サーフェスマウントアダプター	88
フラッシュマウントアダプター	89
フラッシュマウントカバー	90
タイルブリッジA	90
タイルブリッジB	91
タイルブリッジC	91
グリッド天井用のタイルブリッジ組立図	92
テクニカルデータ	93
ATND1061LK	93
一般仕様	93
マイクロホン	93
アナログオーディオ	93
その他	94
ATND1061DAN	94
一般仕様	94
マイクロホン	95
アナログオーディオ	95
その他	96
指向特性／周波数特性	97
指向特性	97

目次

周波数特性	97
商標について	98
系統図	99



安全上の注意

本製品は安全性に十分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

 危険	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が切迫しています」を意味しています。
 警告	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
 注意	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

本製品について

本製品は一般向けではなく産業での使用を目的とした製品です。

 警告	<ul style="list-style-type: none">● 異常（音、煙、臭いや発熱、損傷など）に気付いたら使用しない 異常に気付いたらすぐに使用を中止して、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。● 分解や改造はしない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。● 強い衝撃を与えない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。● 濡れた手で触れない 感電によるけがの恐れがあります。● 水をかけない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。● 本製品に異物（燃えやすい物、金属、液体など）を入れない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。● 布などで覆わない 過熱による火災など事故の原因になります。● 幼児の手の届く場所に置かない 本製品は幼児がいる場所での使用を目的としたものではありません。● 火のそばに置かない 事故や火災の原因になります。
 注意	<ul style="list-style-type: none">● 直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。また、故障、不具合の原因になります。● 火気に近づけない 変形、故障の原因になります。● ベンジン、シンナー、接点復活剤などは使用しない 変形、故障の原因になります。

電池について（赤外線リモコン）

指定電池以外は使用しないでください。

指定電池	コイン形リチウム電池（CR2025）
⚠ 危険	<ul style="list-style-type: none">● 電池の液が目に入ったときは目をこすらない すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、医師の診察を受けてください。● 電池の液が漏れたときは素手で液を触らない 液が本製品の内部に残ると故障の原因になります。 万一、なめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で充分にうがいをし、医師の診察を受けてください。 皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてください。
⚠ 警告	<ul style="list-style-type: none">● 火の中に入れてない、加熱、分解、改造しない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。● 釘を刺したりハンマーで叩いたり踏み付けたりしない 発熱、破損、発火の原因になります。● 幼児の手の届く所に置かない 電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師の診察を受けてください。 窒息や内臓への障害の恐れがあります。● 電池は（+）（-）を逆に入れない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。● 硬貨やカギなど金属製のものと一緒に場所に置いたり、電池の（+）と（-）を接続しない ショート状態になり液漏れ、発熱、破裂の原因になります。● 使い切った電池はすぐに取り出す 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。● 長期間使用しない場合は電池を取り出す 液漏れによる故障の原因になります。
⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none">● 落下させたり強い衝撃を与えない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。● 以下の場所で使用、放置、保管しない 直射日光の当たる場所、高温多湿の場所／炎天下の車内／ストーブなどの熱源の近く 液漏れ、発熱、破裂、性能低下の原因になります。● 水に濡らさない 発熱、破裂、発火の原因になります。● 変形させたりハンダ付けしない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。● 保管、廃棄の場合は端子（金属部分）をテープなどで絶縁する 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。● 指定の電池以外使用しない 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。● 使用済みの電池は自治体の所定の方法で処分する 環境安全に配慮してください。

設置上の注意

- 本製品の設置は専門の業者にご依頼ください。設置する地域の法律や条例などを考慮して、設置場所や設置方法を決めてください。
- 設置場所の強度不足、設置不備による落下などの事故に対する責任は、当社は一切負いません。
- 高いところで作業する場合には、安定した場所を選び踏み台などのがたつきがないことを確認したうえで、作業を行ってください。
- 人や機材の移動時に本製品がぶつかったり、破損したりしない場所に設置してください。
- 設置する場所の強度を確認してください。本製品の質量の10倍以上の強度があることが目安です。
- 設置する天井の構造によっては、振動が伝わりノイズが発生することがあります。別途適切な制振処理を行うことをお勧めします。
- 設置する際は、必ず同梱の付属品を使用してください。
- 付属品はほかの用途や、本製品以外で使用しないでください。
- 油・煙の多い場所や溶剤・溶液が揮発している場所に設置しないでください。本製品の樹脂部分が化学反応により劣化・破損し、落下などの事故の原因となります。
- 塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しないでください。腐食により本製品の強度が低下し、落下などの事故の原因となります。
- ねじの締め付けが弱かったり、奥まで締めこんでいない場合は、本製品が落下してけがの原因となります。
- 設置する際にケーブルを挟まないでください。
- 落下防止ワイヤー、結束バンドや安全ベルトは指定された場所に確実に取り付けてください。
- 落下防止ワイヤーを取り付ける際にはできるだけたるみが少なくなるように取り付けてください。
- 落下防止ワイヤーに一度でも落下衝撃が加わった場合、新しい落下防止ワイヤーに交換してください。

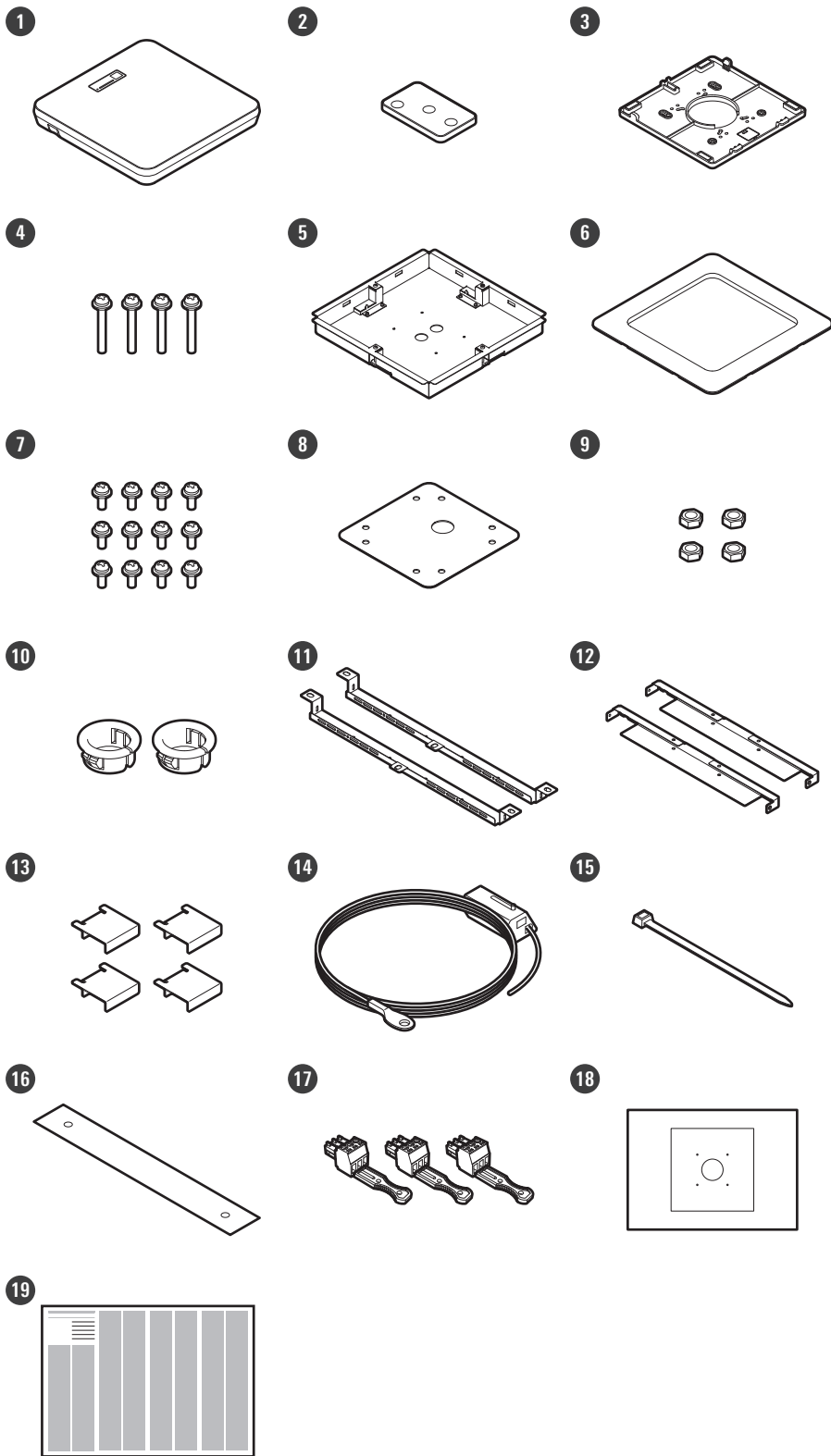
お手入れ

汚れたときやほこりが付いたときは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。



- ベンジン、シンナー、接点復活剤などは使用しないでください。変形、故障の原因になります。

同梱品の確認



① マイクロホン

② 赤外線リモコン

コイン形リチウム電池が付属しています。

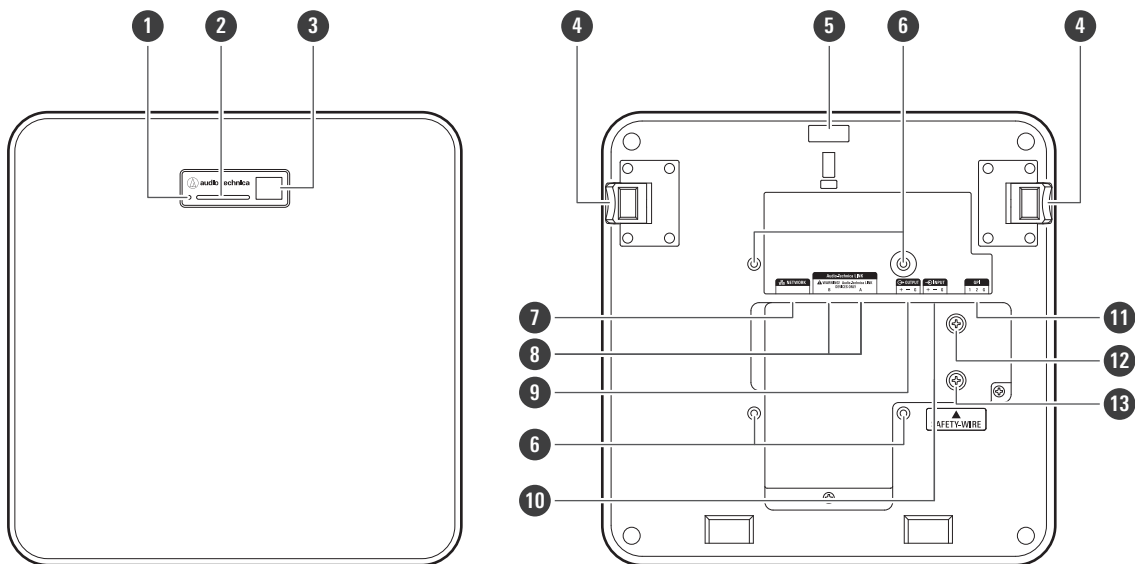
同梱品の確認

- ③ サーフェスマウントアダプター
- ④ ねじ (M4×50mm) ×4
- ⑤ フラッシュマウントアダプター
- ⑥ フラッシュマウントカバー
- ⑦ ねじ (M4×10mm) ×12
- ⑧ ホールカバー
- ⑨ ナット×4
- ⑩ 配線保護ブッシュ×2
- ⑪ タイルブリッジA×2
- ⑫ タイルブリッジB×2
- ⑬ タイルブリッジC×4
- ⑭ 落下防止ワイヤー
- ⑮ 結束バンド
- ⑯ 安全ベルト
- ⑰ ユーロブロックコネクター×3
- ⑱ 施工用型紙
- ⑲ クイックスタートガイド

各部の名称と機能

マイクロホン

ATND1061LK



1 リセットボタン

マイクロホンをリセットする場合は、先の細いピンを差し込んで押ししてください。

2 インジケータ

3 赤外線受光部

4 取外ボタン

5 結束バンド取付用穴

6 VESAマウント用ねじ穴

VESA規格マウントで設置する場合に使用します。

7 ネットワーク端子

LANケーブル（CAT5e以上）を接続します。ローカルエリアネットワークに接続し、アプリケーションによる外部制御を行います。

8 Audio-Technica LINK A/B端子

Audio-Technica LINKで使用します。LANケーブル（CAT5e以上、導体サイズ24AWGの径以上、シールド付きを必ず使用）を接続します。

9 アナログ出力端子

バランスケーブルを接続します。

+ : HOT

- : COLD

G : GND

各部の名称と機能

10 アナログ入力端子

バランスケーブルを接続します。

- + : HOT
- : COLD
- G : GND

11 GPI端子

詳しくは「GPI端子について」(p.52)を確認してください。

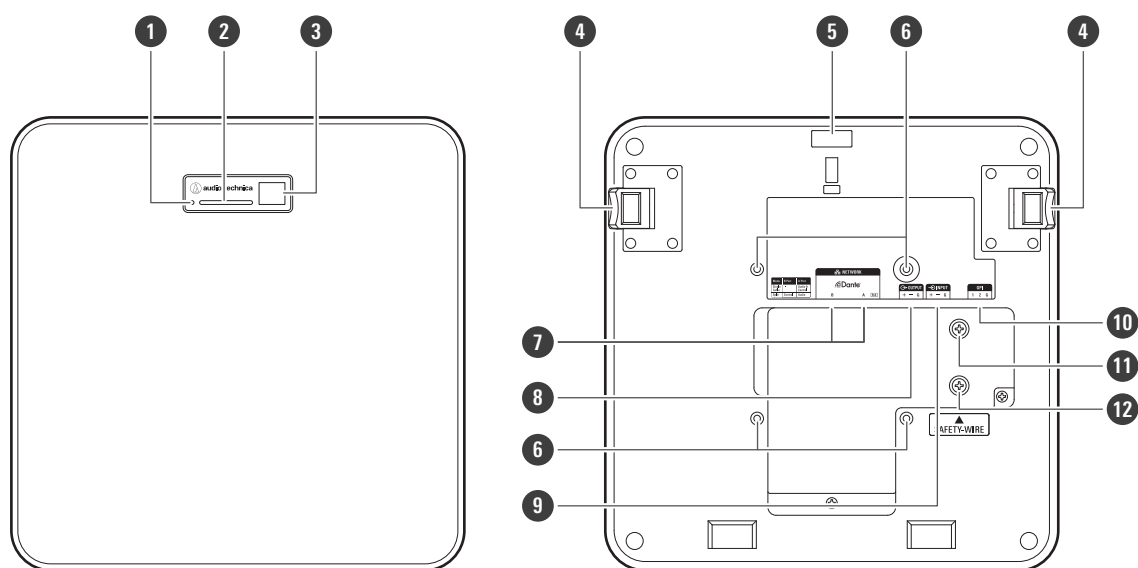
- 1 : GPI1
- 2 : GPI2
- G : GND

12 アース用ねじ

必要に応じてアース接続を行ってください。

13 落下防止ワイヤー用ねじ

ATND1061DAN



1 リセットボタン

マイクロホンをリセットする場合は、先の細いピンを差し込んで押ししてください。

2 インジケータ

3 赤外線受光部

4 取外ボタン

5 結束バンド取付用穴

6 VESAマウント用ねじ穴

VESA規格マウントで設置する場合に使用します。

各部の名称と機能

7 ネットワークA/B端子

Dante規格のネットワーク端子です。LANケーブル（CAT5e以上、導体サイズ24AWGの径以上、シールド付きを必ず使用）を接続します。ローカルエリアネットワークに接続し、アプリケーションによる外部制御を行います。ネットワークA端子をPoE対応スイッチングハブに接続すると電源がONになります。

8 アナログ出力端子

バランスケーブルを接続します。

+ : HOT
- : COLD
G : GND

9 アナログ入力端子

バランスケーブルを接続します。

+ : HOT
- : COLD
G : GND

10 GPI端子

詳しくは「GPI端子について」(p.52)を確認してください。

1 : GPI1
2 : GPI2
G : GND

11 アース用ねじ

必要に応じてアース接続を行ってください。

12 落下防止ワイヤー用ねじ

インジケータ

インジケータの色でマイクロホンの状態を確認できます。

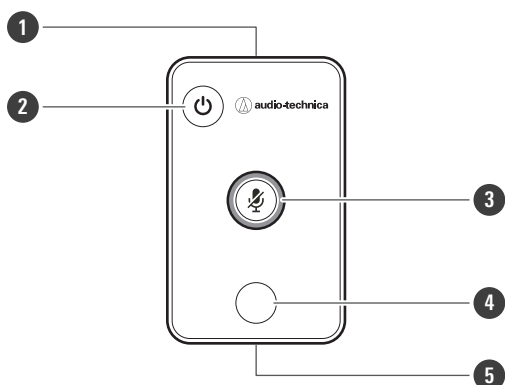
インジケータ	状態
グリーン色点灯 ^[1]	通常時（ミュート解除時）
レッド色点灯 ^[1]	ミュート時
シアン色点灯 ^[1]	パワーセーブ（省電力）モード
レッド色点滅（1秒間隔）	ネットワーク接続中
レッド色点滅（2秒間隔）	エラー発生

[1] 「LED Settings」でインジケータの色を変更できます。



- プリセット変更時のインジケータの色については「プリセットの変更方法」(p.14)を確認してください。
- ネットワークモード確認時のインジケータの色については「ネットワークモードの確認」(p.53)を確認してください。

赤外線リモコン



1 赤外線送信部

2 パワーセーブモード/キャンセルボタン

パワーセーブモードのON/OFF、プリセット設定をキャンセルするときに使用します。
パワーセーブモード中は、通常動作モードに復帰する以外の制御信号を受け取りません。マイクロホンを使用しないときはパワーセーブモードにしてください。

3 ミュート/決定ボタン

All MuteのON/OFF、プリセット設定を決定するときに使用します。

4 プリセットモードボタン

プリセット設定を変更するときに使用します。

5 電池カバー

コイン形リチウム電池（初期動作確認用）が付属しています。

ご使用前に通電防止用のフィルムを取り外してください。

コイン形リチウム電池は指定の型番（CR2025）の電池のみ使用できます。電池を交換するときは、リモコンを裏返して電池カバーを取り外し、電池のプラス（+）側を上にして電池カバーに入れてください。

プリセットの変更方法

赤外線リモコンでプリセットの変更ができます。

Preset 1～Preset 4に入っている設定を呼び出します。プリセットについて詳しくは、「プリセットについて」(p.74)を確認してください。

1 プリセットモードボタンを短押しします。

≫ マイクロホンのインジケーターがシアン色に点滅します。

2 プリセットモードボタンを長押し（3秒）して指を離します。

≫ マイクロホンのインジケーターがレッド色に点滅します。

3 プリセットモードボタンを短押ししてプリセットを選択します。

- プリセットモードボタンを押すたびに、プリセットの選択が切り替わります。
- 選択しているプリセットの番号に応じてマイクロホンのインジケーターの色が変わり、点滅します。
Preset 1：レッド色
Preset 2：グリーン色
Preset 3：ブルー色
Preset 4：イエロー色
- パワーセーブモード／キャンセルボタンを押すか、数秒間操作しないですと変更をキャンセルできます。

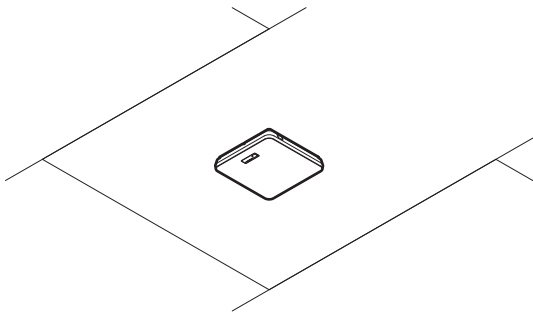
4 ミュート／決定ボタンを押して決定します。

設置のしかた

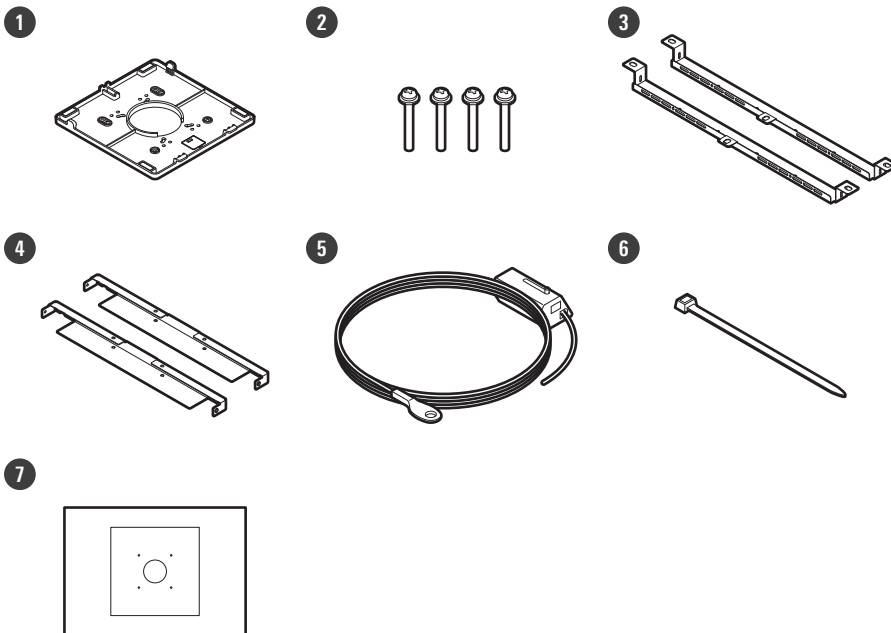
在来天井への設置

天井に直接取り付ける場合

設置完成図



設置に使用する部品

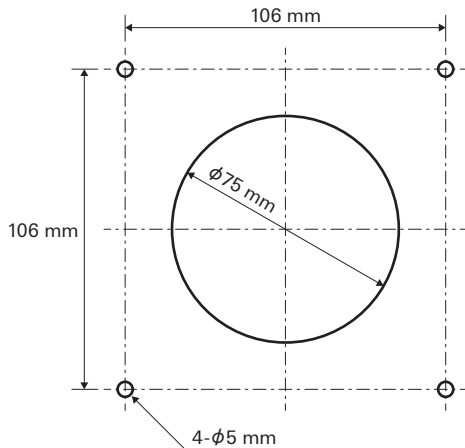


- ① サーフェスマウントアダプター
- ② ねじ (M4×50mm) ×4
- ③ タイルブリッジA×2
- ④ タイルブリッジB×2
- ⑤ 落下防止ワイヤー
- ⑥ 結束バンド
- ⑦ 施工用型紙

設置のしかた

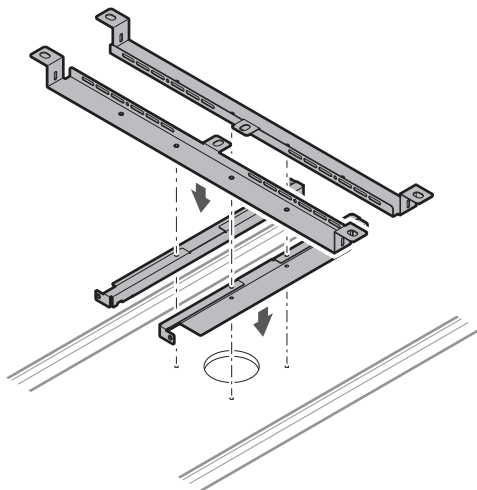
1 天井にマイクロホンを取り付けるための穴を開けます。

- 同梱されている施工用型紙を使用して指定寸法の取り付け穴を開けてください。
- 天井構造フレームの配置によっては設置できない場所があります。天井内部構造を確認して取り付け位置を決めてください。



2 タイルブリッジAとタイルブリッジBを天井裏に配置します。

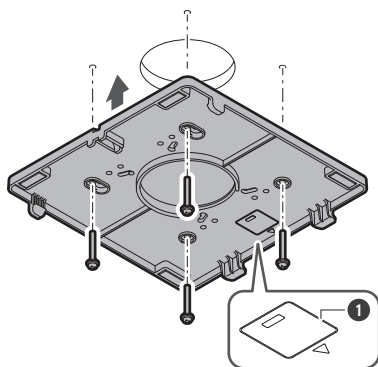
- 天井に開けた穴とタイルブリッジA/Bのねじ穴の位置を合わせて配置してください。
- 天井構造フレームにタイルブリッジA/Bが確実に固定され、十分な荷重を受けられるように取り付けてください。
- 天井構造フレームとの配置によって確実な固定が難しい場合には、タイルブリッジAの取り付け穴にボルトやナットを使用して天井構造フレームに確実に固定してください。
タイルブリッジA取り付け穴適用ボルトサイズ：W3/8またはM10



3 サーフェスマウントアダプターをねじ（M4×50mm）で取り付けます。

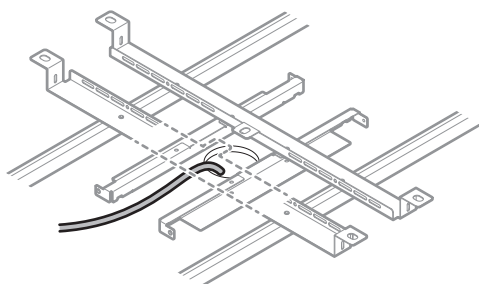
- サーフェスマウントアダプターの刻印は、マイクロホンの向きを示しています。

設置のしかた



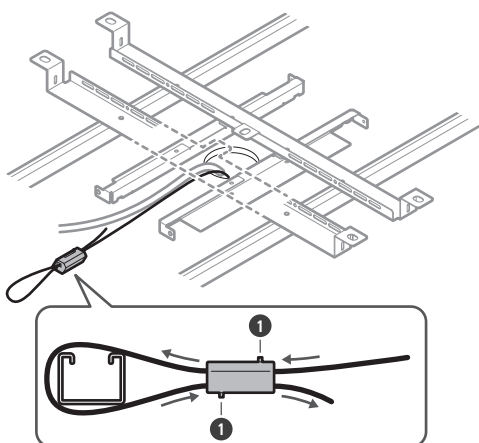
- ① マイクロホンの向きを示す刻印

4 天井裏にケーブルを配線します。



5 落下防止ワイヤーを天井構造フレームに取り付けます。

- 落下防止ワイヤーは天井構造フレームの強度がある場所にしっかりと取り付けてください。
- ロック解除ピンをスライドさせることにより、ロックが解除されワイヤーの調節ができます。



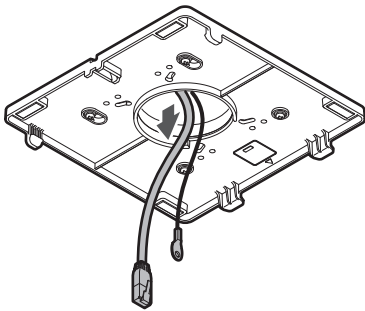
- ① ロック解除ピン

設置のしかた

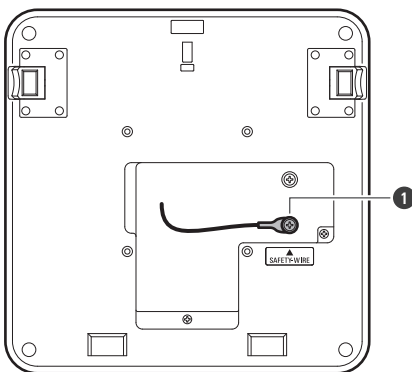


- 落下防止ワイヤーを取り付ける際にはできるだけたるみが少なくなるように取り付けてください。
- 落下防止ワイヤーのたるみが多い状態で使用すると、万一、マイクロホンが落下した際の衝撃が大きくなり、事故やけが、またはマイクロホンが破損する恐れがあります。
- 落下防止ワイヤーに一度でも落下衝撃が加わった場合、新しい落下防止ワイヤーに交換してください。

6 ケーブルと落下防止ワイヤーをサーフェスマウントアダプターの穴に通します。



7 落下防止ワイヤーを落下防止ワイヤー用ねじでマイクロホンに取り付けます。



① 落下防止ワイヤー用ねじ

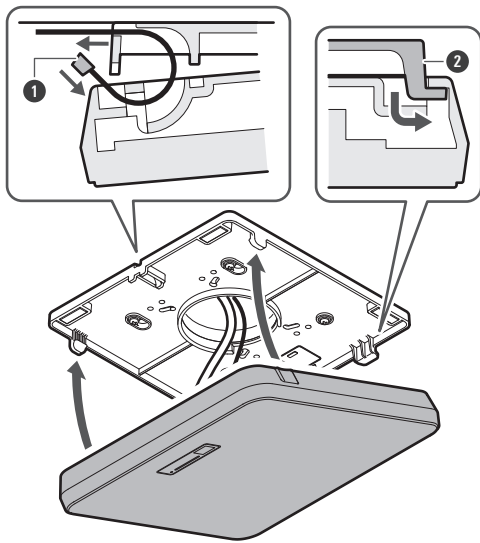
8 配線したケーブルをマイクロホンに接続します。

- ケーブルの接続については、「接続のしかた」(p.45)を確認してください。

9 結束バンドをマイクロホンとサーフェスマウントアダプターに通しながら、マイクロホンをサーフェスマウントアダプターに取り付けます。

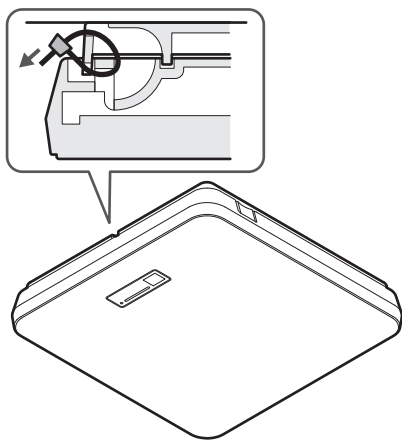
- サーフェスマウントアダプターのツメがマイクロホンに確実に引っ掛かっていることを確認してから、マイクロホンのもう一方を押し上げて取り付けてください。

設置のしかた



- ① 結束バンド
- ② サーフェスマウントアダプターのツメ

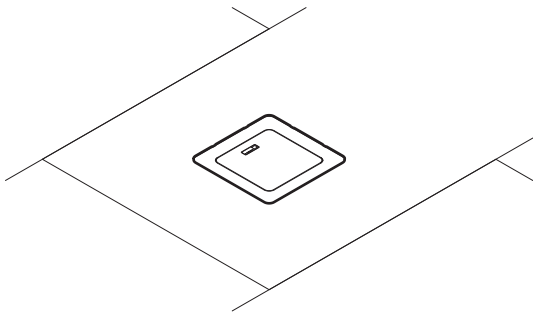
10 結束バンドを締めて固定します。



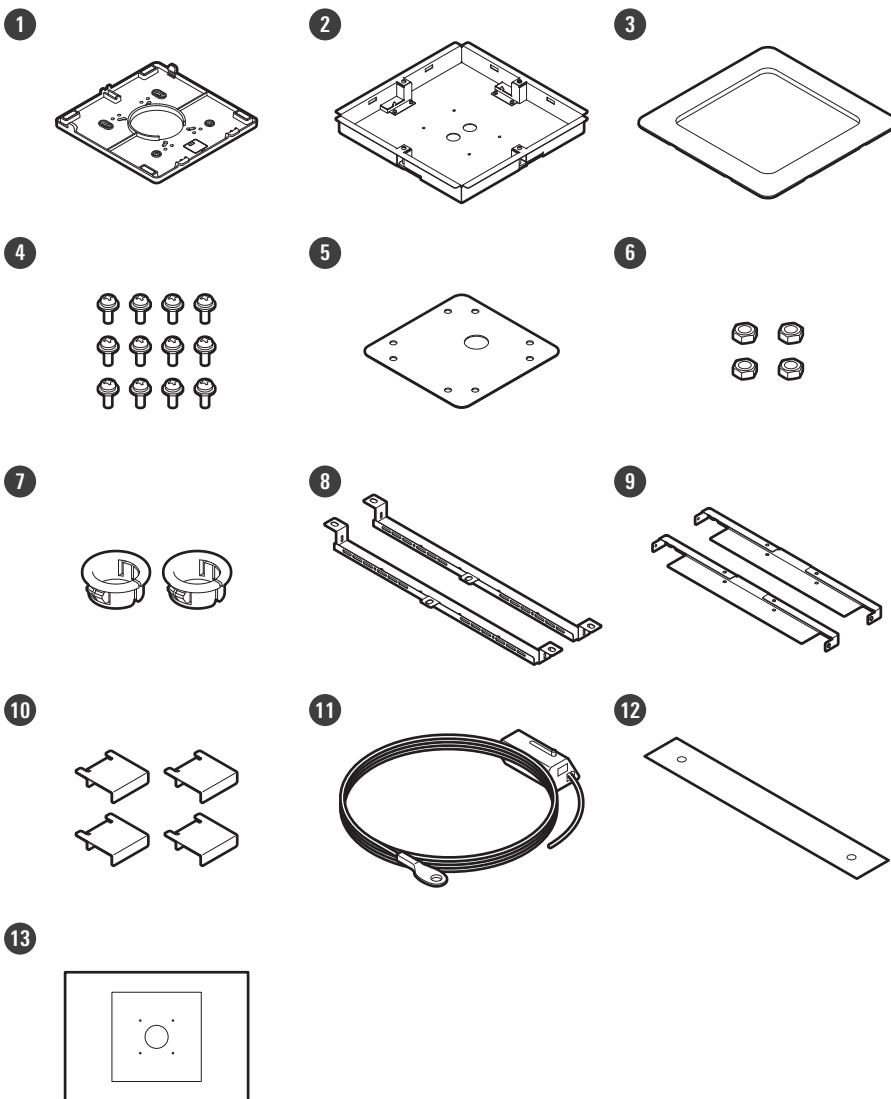
設置のしかた

天井に埋め込む場合

設置完成図



設置に使用する部品



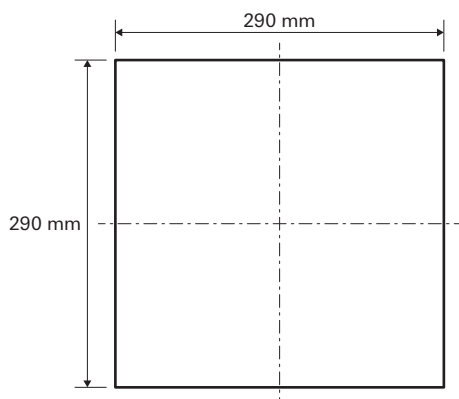
1 サーフェスマウントアダプター

設置のしかた

- ② フラッシュマウントアダプター
- ③ フラッシュマウントカバー
- ④ ねじ (M4×10mm) ×12
- ⑤ ホールカバー
- ⑥ ナット×4
- ⑦ 配線保護ブッシュ×2
- ⑧ タイルブリッジA×2
- ⑨ タイルブリッジB×2
- ⑩ タイルブリッジC×4
- ⑪ 落下防止ワイヤー
- ⑫ 安全ベルト
- ⑬ 施工用型紙

1 天井にマイクロホンを取り付けるための角穴を開けます。

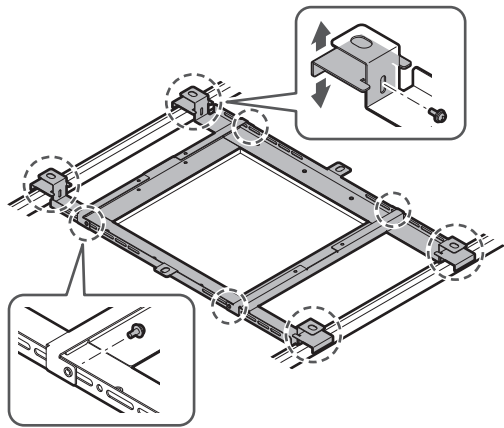
- 同梱されている施工用型紙を使用して指定寸法の取り付け穴を開けてください。
- 天井構造フレームの配置によっては設置できない場合があります。天井内部構造を確認して取り付け位置を決めてください。
- 設置可能な天井の厚み：最大25mm



2 タイルブリッジAとタイルブリッジBを天井裏に配置し、ねじ (M4×10mm) で組み立てます。タイルブリッジCを天井構造フレームの高さに合わせて調節し、ねじ (M4×10mm) で取り付けます。

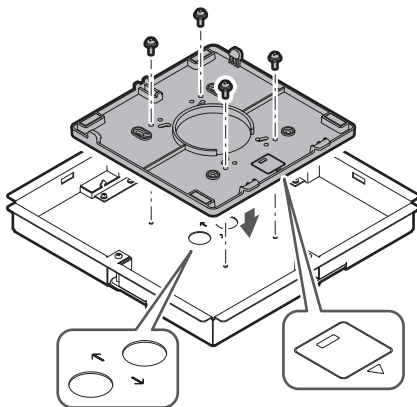
- 天井に開けた角穴に合わせてタイルブリッジA/Bを配置して組み立ててください。
- 天井構造フレームにタイルブリッジA/B/Cが確実に固定され、十分な荷重を受けられるように取り付けてください。
- 天井構造フレームとの配置によって確実な固定が難しい場合には、タイルブリッジAの取り付け穴にボルトやナットを使用して天井構造フレームに確実に固定してください。
タイルブリッジA取り付け穴適用ボルトサイズ：W3/8またはM10

設置のしかた



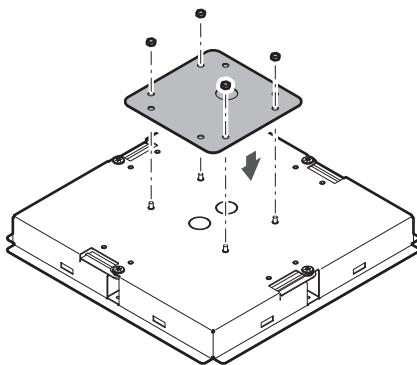
3 サーフェスマウントアダプターをフラッシュマウントアダプターにねじ (M4×10mm) で取り付けます。

- フラッシュマウントアダプターの矢印とサーフェスマウントアダプターの刻印の向きが合うように取り付けてください。



4 ホールカバーをナットで取り付けます。

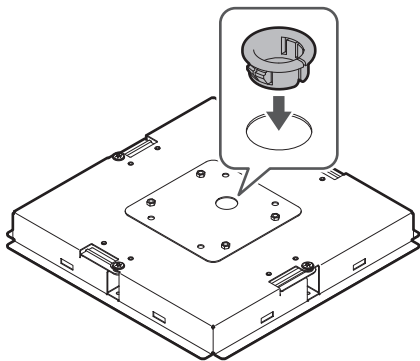
- 両方の穴を使用するときは、この手順をスキップして次に進んでください。



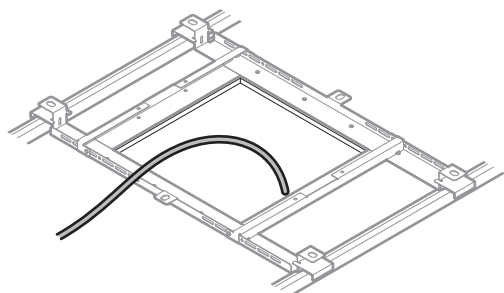
設置のしかた

5 配線保護ブッシュを取り付けます。

- 配線保護ブッシュは上側から手で押し込んで取り付けてください。
- 配線するケーブルの数が増えるときは、ホールカバーを使わずに配線保護ブッシュを2つ取り付けてください。



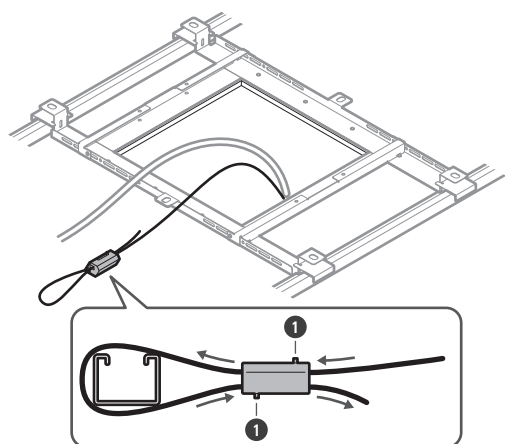
6 天井裏にケーブルを配線します。



7 落下防止ワイヤーを天井構造フレームに取り付けます。

- 落下防止ワイヤーは天井構造フレームの強度がある場所にしっかりと取り付けてください。
- ロック解除ピンをスライドさせることにより、ロックが解除されワイヤーの調節ができます。

設置のしかた



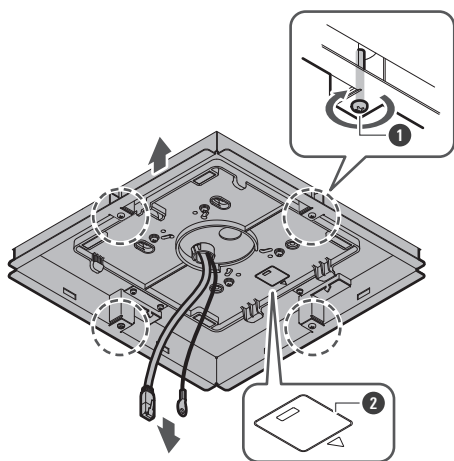
① ロック解除ピン



- 落下防止ワイヤーを取り付ける際にはできるだけたるみが少なくなるように取り付けてください。
- 落下防止ワイヤーのたるみが多い状態で使用すると、万一、マイクロホンが落下した際の衝撃が大きくなり、事故やけが、またはマイクロホンが破損する恐れがあります。
- 落下防止ワイヤーに一度でも落下衝撃が加わった場合、新しい落下防止ワイヤーに交換してください。

8 ケーブルと落下防止ワイヤーをフラッシュマウントアダプターの配線保護ブッシュの穴に通しながら、フラッシュマウントアダプターを天井にあけた角穴にはめ込み、取り付け用ねじを締め付けて取り付けます。

- サーフェスマウントアダプターの刻印は、マイクロホンの向きを示しています。
- フラッシュマウントアダプターがしっかりと固定されるまで取り付け用ねじを締め付けてください。

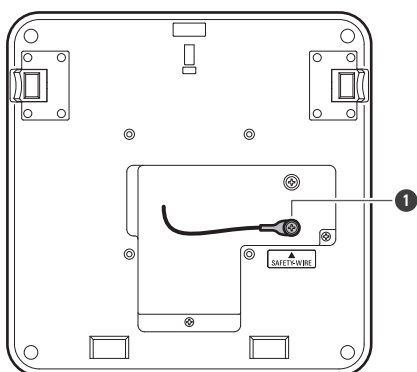


① 取り付け用ねじ

② マイクロホンの向きを示す刻印

設置のしかた

- 9** 落下防止ワイヤーを落下防止ワイヤー用ねじでマイクロホンに取り付けます。



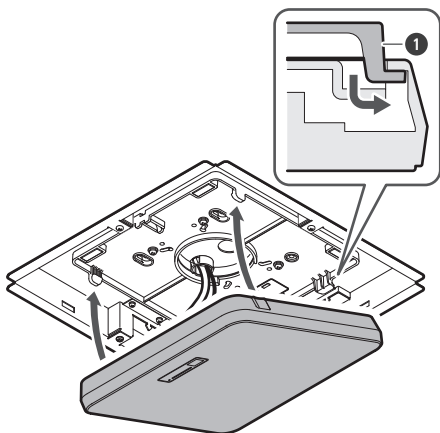
- 1** 落下防止ワイヤー用ねじ

- 10** 配線したケーブルをマイクロホンに接続します。

- ケーブルの接続については、「接続のしかた」(p.45)を確認してください。

- 11** マイクロホンをサーフェスマウントアダプターに取り付けます。

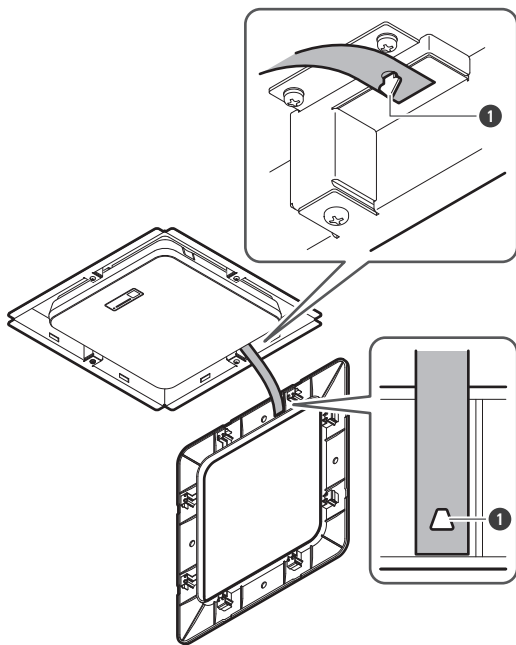
- サーフェスマウントアダプターのツメがマイクロホンに確実に引っ掛かっていることを確認してから、マイクロホンのもう一方を押し上げて取り付けてください。



- 1** サーフェスマウントアダプターのツメ

- 12** 安全ベルトをフラッシュマウントアダプターとフラッシュマウントカバーのフックに引っ掛けて取り付けます。

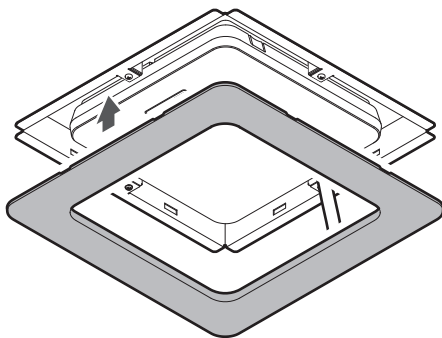
- 安全ベルトを取り付ける方向に注意してください。



① 安全ベルト取り付け用フック

13 フラッシュマウントカバーをフラッシュマウントアダプターにはめ込んで取り付けます。

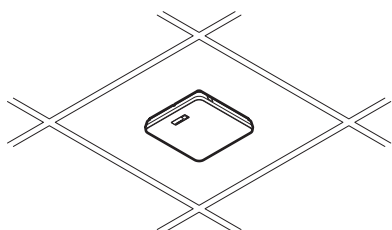
- フラッシュマウントカバーを取り付ける際に、安全ベルトが折れたりねじれたりしないように注意してください。



グリッド天井への設置

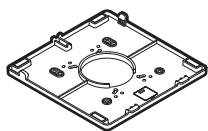
天井に直接取り付ける場合

設置完成図



設置に使用する部品

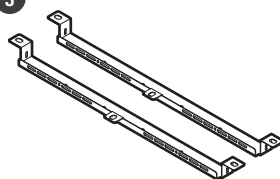
①



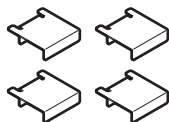
②



③



④



⑤



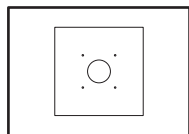
⑥



⑦



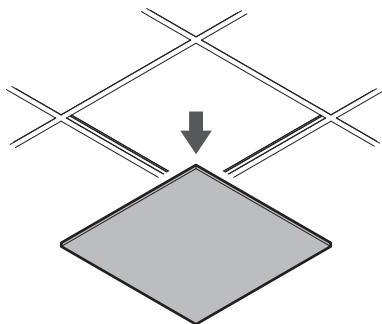
⑧



- ① サーフェスマウントアダプター
- ② ねじ (M4×50mm) ×4
- ③ タイルブリッジA×2
- ④ タイルブリッジC×4
- ⑤ ねじ (M4×10mm) ×4
- ⑥ 落下防止ワイヤー
- ⑦ 結束バンド
- ⑧ 施工用型紙

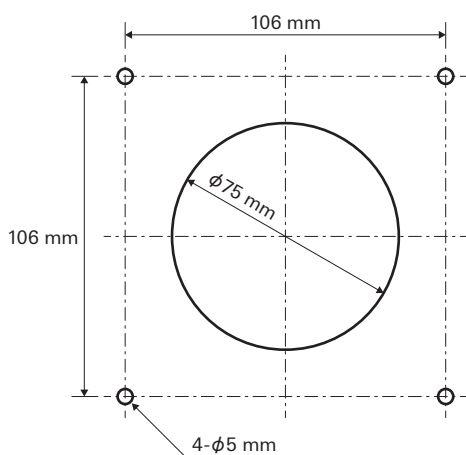
設置のしかた

- 1** マイクロホンを設置する部分の天井タイルを取り外します。



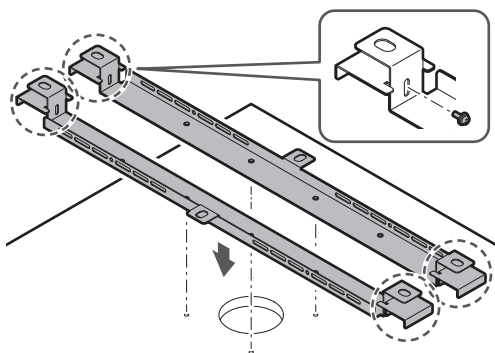
- 2** 天井タイルにマイクロホンを取り付けるための穴を開けます。

- 同梱されている施工用型紙を使用して指定寸法の取り付け穴を開けてください。
- 取り付け穴位置は天井タイルのセンターに合わせてください。



- 3** タイルブリッジAを天井タイル裏に配置します。
タイルブリッジCを仮組みでタイルブリッジAにねじ（M4×10mm）で取り付けます。

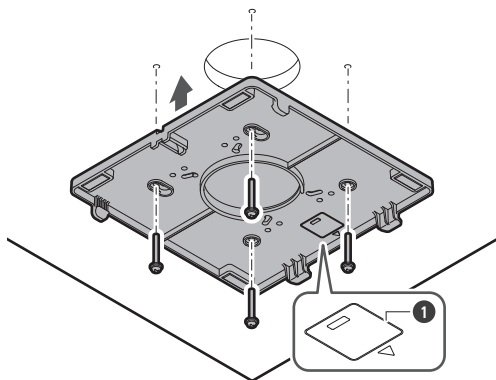
- 天井タイルに開けた穴とタイルブリッジAのねじ穴の位置を合わせて配置してください。



設置のしかた

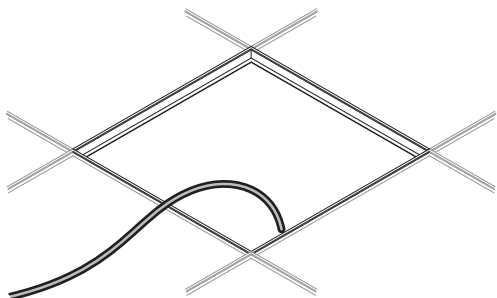
4 サーフスマウントアダプターをねじ（M4×50mm）で取り付けます。

- サーフスマウントアダプターの刻印は、マイクロホンの向きを示しています。



- ① マイクロホンの向きを示す刻印

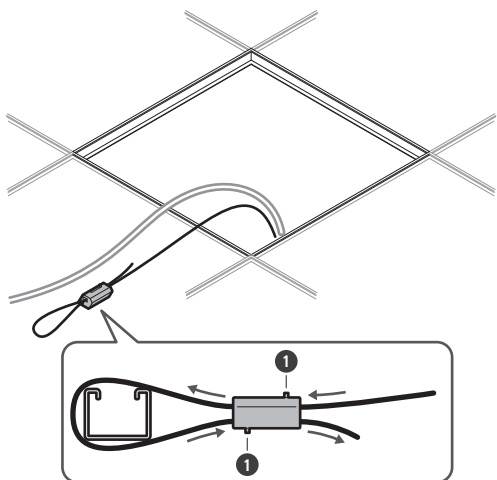
5 天井裏にケーブルを配線します。



6 落下防止ワイヤーを天井構造フレームに取り付けます。

- 落下防止ワイヤーは天井構造フレームの強度がある場所にしっかりと取り付けてください。
- ロック解除ピンをスライドさせることにより、ロックが解除されワイヤーの調節ができます。

設置のしかた

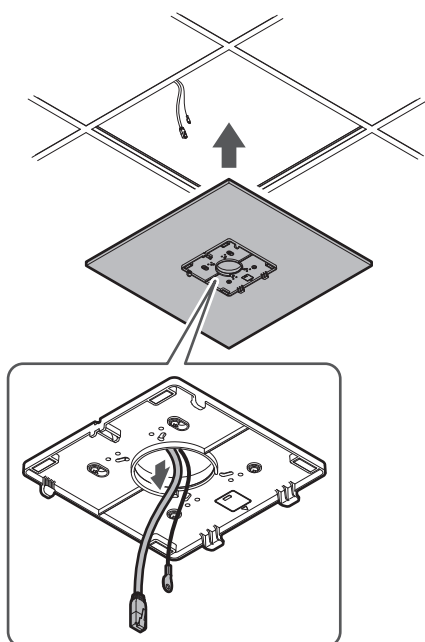


① ロック解除ピン



- 落下防止ワイヤーを取り付ける際にはできるだけたるみが少なくなるように取り付けてください。
- 落下防止ワイヤーのたるみが多い状態で使用すると、万一、マイクロホンが落下した際の衝撃が大きくなり、事故やけが、またはマイクロホンが破損する恐れがあります。
- 落下防止ワイヤーに一度でも落下衝撃が加わった場合、新しい落下防止ワイヤーに交換してください。

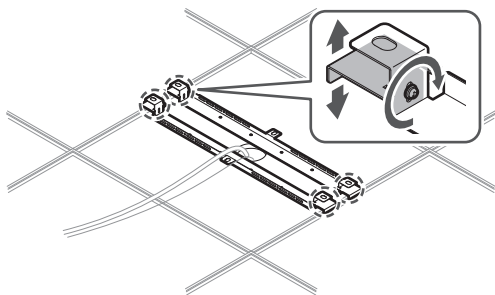
- 7** ケーブルと落下防止ワイヤーをサーフェスマウントアダプターの穴に通しながら、天井タイルを元通りに天井に取り付けます。



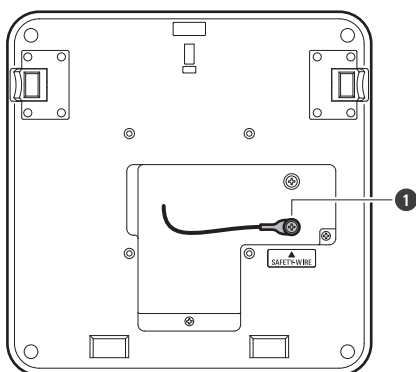
設置のしかた

8 仮組みしたタイルブリッジCを天井構造フレームの高さに合わせて調整し、ねじ（M4×10mm）を締め付けて固定します。

- 天井構造フレームにタイルブリッジA/Cが確実に固定され、十分な荷重を受けられるように取り付けてください。
- 天井構造フレームとの配置によって確実な固定が難しい場合には、タイルブリッジAの取り付け穴にボルトやナットを使用して天井構造フレームに確実に固定してください。
タイルブリッジA取り付け穴適用ボルトサイズ：W3/8またはM10



9 落下防止ワイヤーを落下防止ワイヤー用ねじでマイクロホンに取り付けます。



- ① 落下防止ワイヤー用ねじ

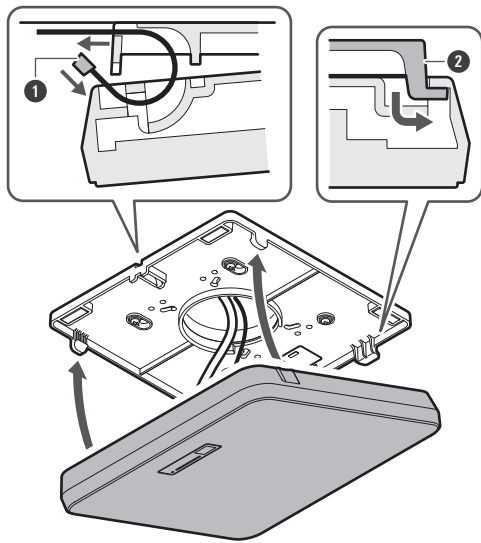
10 配線したケーブルをマイクロホンに接続します。

- ケーブルの接続については、「接続のしかた」(p.45)を確認してください。

11 結束バンドをマイクロホンとサーフェスマウントアダプターに通しながら、マイクロホンをサーフェスマウントアダプターに取り付けます。

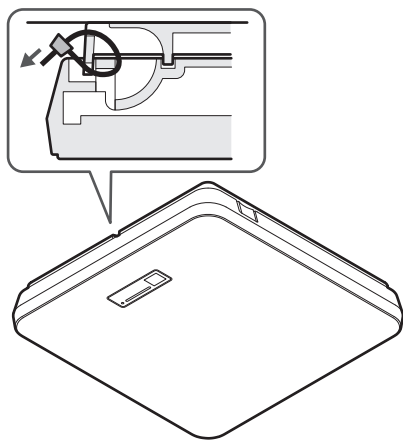
- サーフェスマウントアダプターのツメがマイクロホンに確実に引っ掛かっていることを確認してから、マイクロホンのもう一方を押し上げて取り付けてください。

設置のしかた



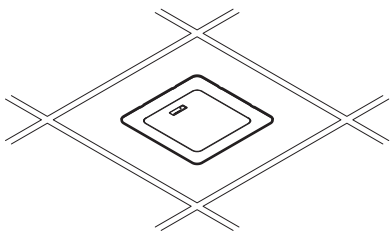
- ① 結束バンド
- ② サーフェスマウントアダプターのツメ

12 結束バンドを締めて固定します。



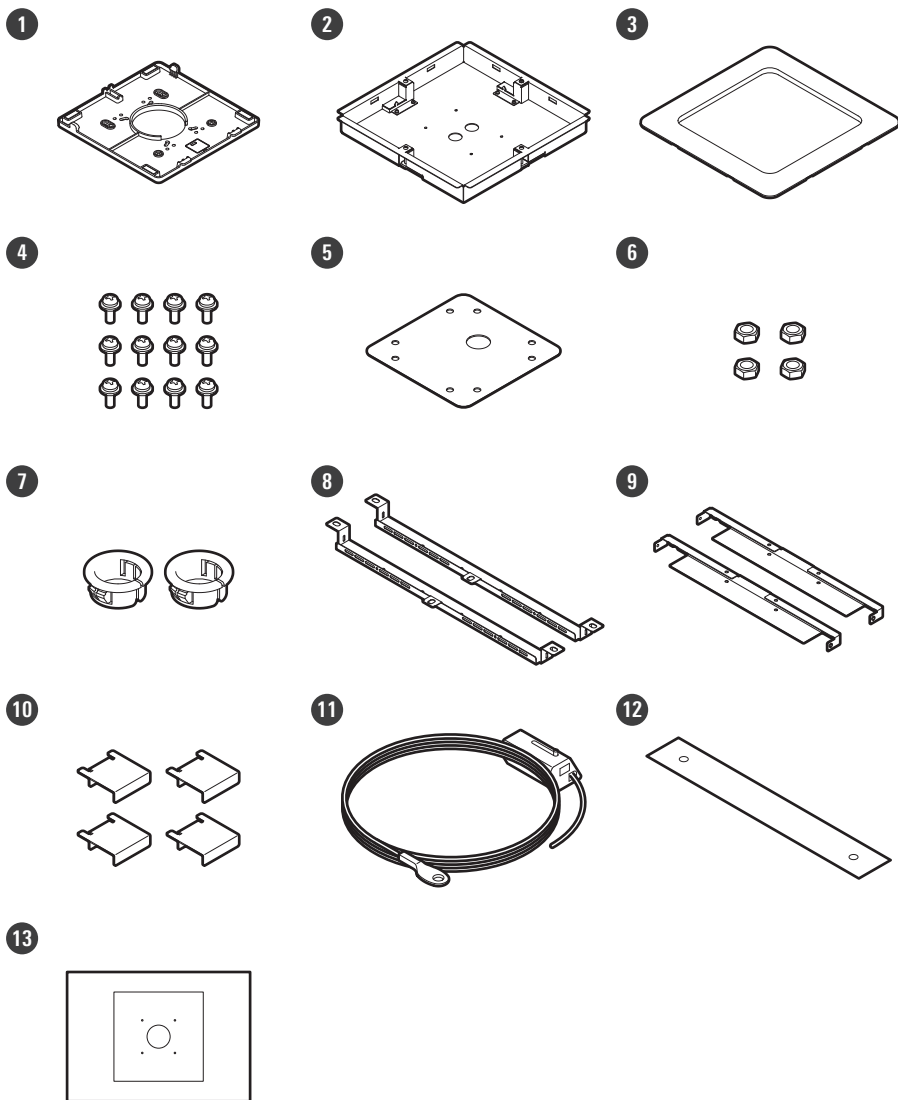
天井に埋め込む場合

設置完成図



設置のしかた

設置に使用する部品

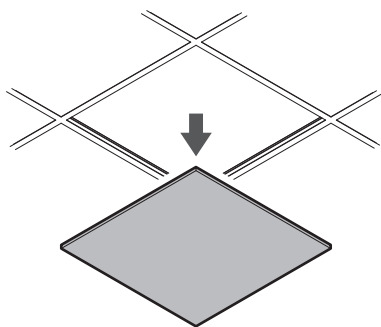


- ① サーフェスマウントアダプター
- ② フラッシュマウントアダプター
- ③ フラッシュマウントカバー
- ④ ねじ (M4×10mm) ×12
- ⑤ ホールカバー
- ⑥ ナット×4
- ⑦ 配線保護ブッシュ×2
- ⑧ タイルブリッジA×2
- ⑨ タイルブリッジB×2
- ⑩ タイルブリッジC×4
- ⑪ 落下防止ワイヤー
- ⑫ 安全ベルト

設置のしかた

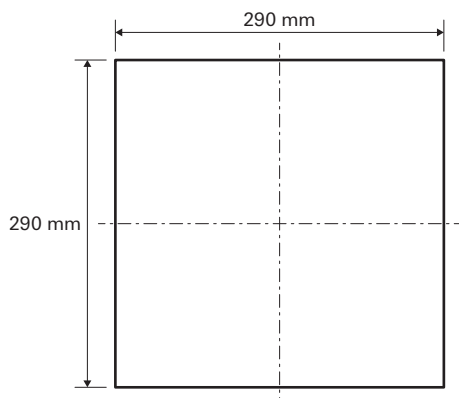
13 施工用型紙

1 マイクロホンを設置する部分の天井タイルを取り外します。



2 天井にマイクロホンを取り付けるための角穴を開けます。

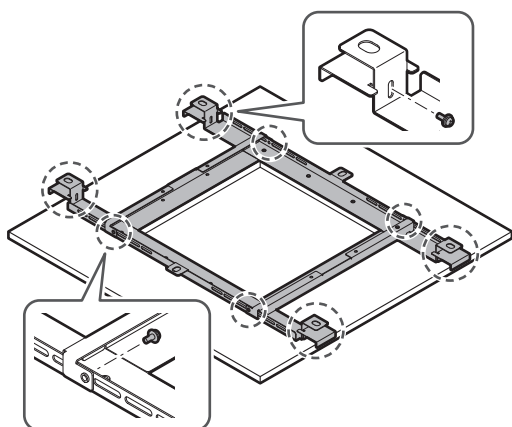
- 同梱されている施工用型紙を使用して指定寸法の取り付け穴を開けてください。
- 取り付け穴位置は天井タイルのセンターに合わせてください。
- 設置可能な天井タイルの厚み：最大25mm



3 タイルブリッジAとタイルブリッジBを天井タイル裏に配置し、ねじ（M4×10mm）で取り付けます。タイルブリッジCを仮組みでタイルブリッジAにねじ（M4×10mm）で取り付けます。

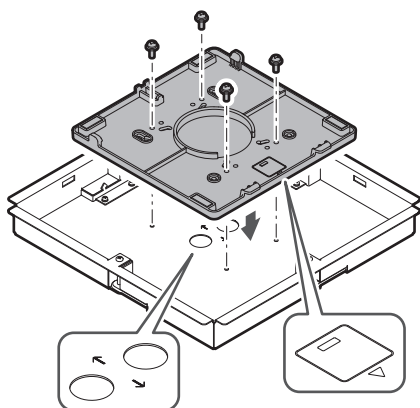
- 天井タイルに開けた角穴に合わせてタイルブリッジA/Bを配置して組み立ててください。

設置のしかた



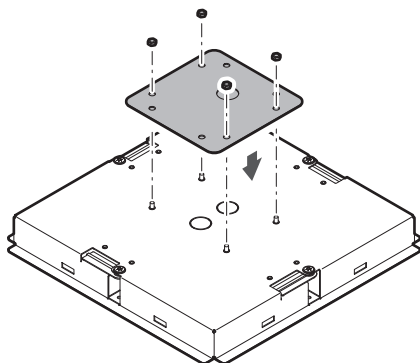
4 サーフェスマウントアダプターをフラッシュマウントアダプターにねじ（M4×10mm）で取り付けます。

- フラッシュマウントアダプターの矢印とサーフェスマウントアダプターの刻印の向きが合うように取り付けてください。



5 ホールカバーをナットで取り付けます。

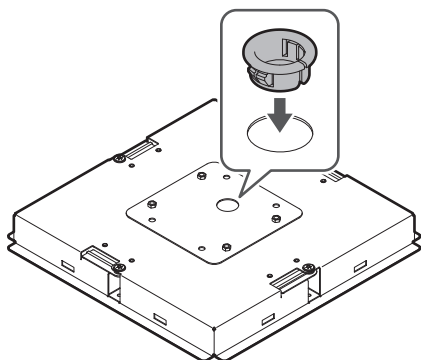
- 両方の穴を使用するときは、この手順をスキップして次に進んでください。



設置のしかた

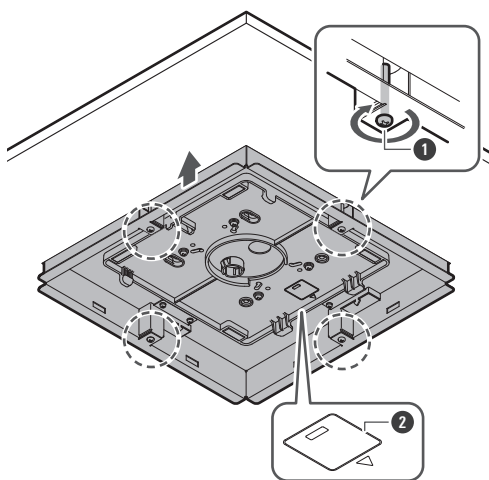
6 配線保護ブッシュを取り付けます。

- 配線保護ブッシュは上側から手で押し込んで取り付けてください。
- 配線するケーブルの数が増えるときは、ホールカバーを使わずに配線保護ブッシュを2個取り付けてください。



7 フラッシュマウントアダプターを天井タイルに開けた角穴にはめ込み、取り付け用ねじを締め付けて取り付けます。

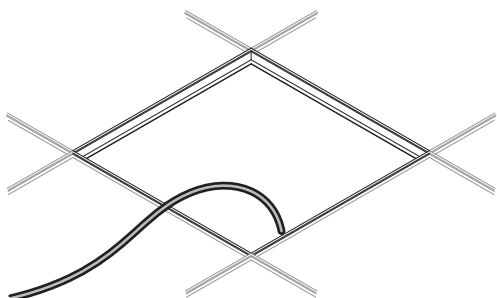
- サーフェスマウントアダプターの刻印は、マイクロホンの向きを示しています。
- フラッシュマウントアダプターがしっかりと固定されるまで取り付け用ねじを締め付けてください。



- ① 取り付け用ねじ
- ② マイクロホンの向きを示す刻印

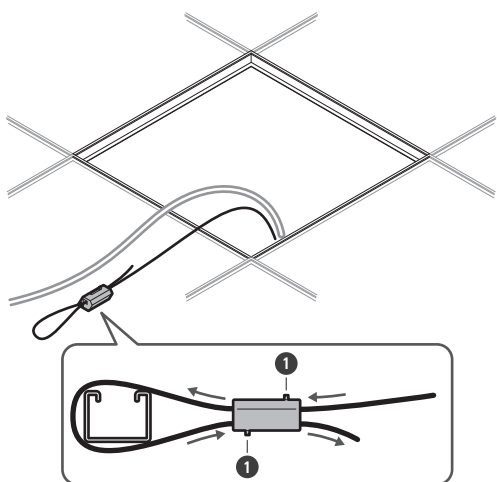
8 天井裏にケーブルを配線します。

設置のしかた



9 落下防止ワイヤーを天井構造フレームに取り付けます。

- 落下防止ワイヤーは天井構造フレームの強度がある場所にしっかりと取り付けてください。
- ロック解除ピンをスライドさせることにより、ロックが解除されワイヤーの調節ができます。



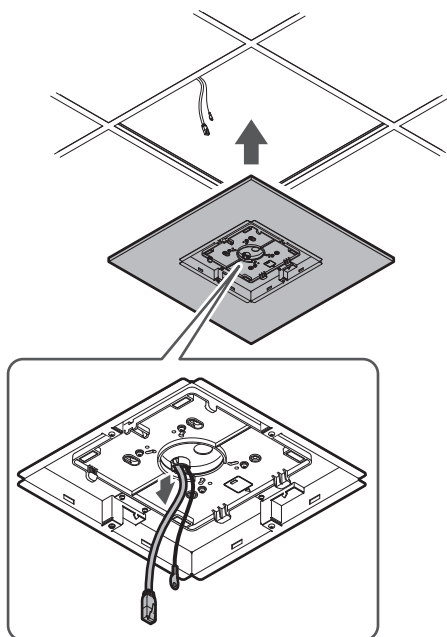
① ロック解除ピン



- 落下防止ワイヤーを取り付ける際にはできるだけたるみが少なくなるように取り付けてください。
- 落下防止ワイヤーのたるみが多い状態で使用すると、万一、マイクロホンが落下した際の衝撃が大きくなり、事故やけが、またはマイクロホンが破損する恐れがあります。
- 落下防止ワイヤーに一度でも落下衝撃が加わった場合、新しい落下防止ワイヤーに交換してください。

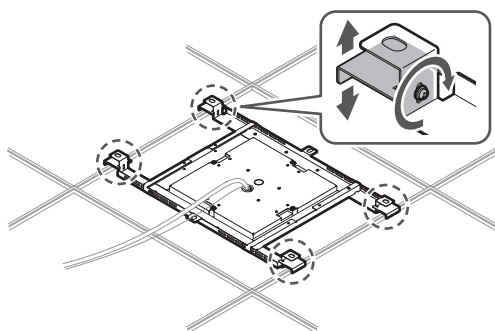
10 ケーブルと落下防止ワイヤーをフラッシュマウントアダプターの配線保護ブッシュの穴に通しながら、天井タイルを元通りに天井に取り付けます。

設置のしかた



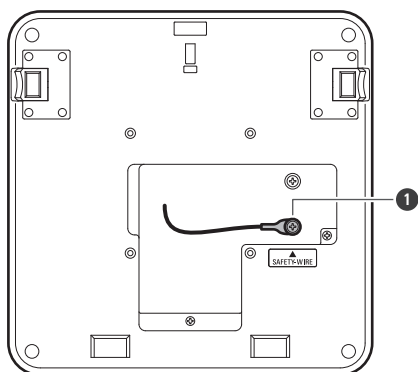
11 仮組みしたタイルブリッジCを天井構造フレームの高さに合わせて調整し、ねじ（M4×10mm）を締め付けて固定します。

- 天井構造フレームにタイルブリッジA/B/Cが確実に固定され、十分な荷重を受けられるように取り付けてください。
- 天井構造フレームとの配置によって確実な固定が難しい場合には、タイルブリッジAの取り付け穴にボルトやナットを使用して天井構造フレームに確実に固定してください。
タイルブリッジA取り付け穴適用ボルトサイズ：W3/8またはM10



12 落下防止ワイヤーを落下防止ワイヤー用ねじでマイクロホンに取り付けます。

設置のしかた



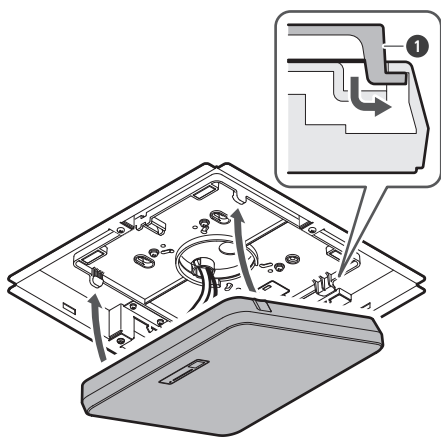
- ① 落下防止ワイヤー用ねじ

13 配線したケーブルをマイクロホンに接続します。

- ケーブルの接続については、「接続のしかた」(p.45)を確認してください。

14 マイクロホンをサーフェスマウントアダプターに取り付けます。

- サーフェスマウントアダプターのツメがマイクロホンに確実に引っ掛かっていることを確認してから、マイクロホンのもう一方を押し上げて取り付けてください。

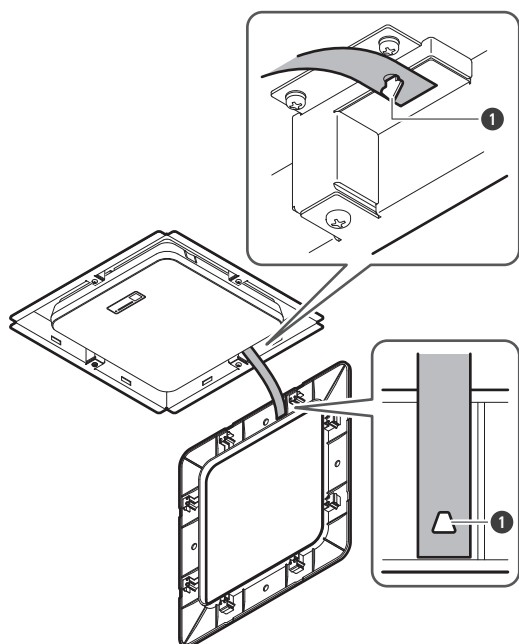


- ① サーフェスマウントアダプターのツメ

15 安全ベルトをフラッシュマウントアダプターとフラッシュマウントカバーのフックに引っ掛けて取り付けます。

- 安全ベルトを取り付ける方向に注意してください。

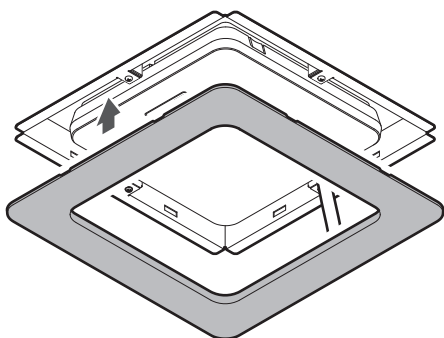
設置のしかた



① 安全ベルト取り付け用フック

16 フラッシュマウントカバーをフラッシュマウントアダプターにはめ込んで取り付けます。

- フラッシュマウントカバーを取り付ける際に、安全ベルトが折れたりねじれたりしないように注意してください。



VESA規格マウントでの設置

市販のVESA規格マウントを使用して設置できます。

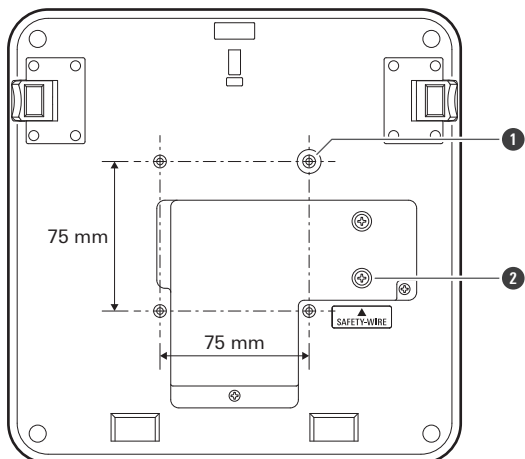
VESA規格寸法：75mmピッチ

取り付けねじ穴：M4（深さ8mm）

- 本製品の取り付けねじ穴の深さ（8mm）と、VESA規格マウントのねじ取り付け部の厚みの合計値を超える長さのねじを使用しないでください。ご使用のVESA規格マウントの取扱説明書も併せて確認してください。
- ねじが緩まないように固定してください。
ねじ締め込みトルク：1.2N・m以下

設置のしかた

- 製品落下防止として落下防止ワイヤーをマイクロホンに固定し、VESA規格マウント側の構造の強度がある場所に取り付けてください。

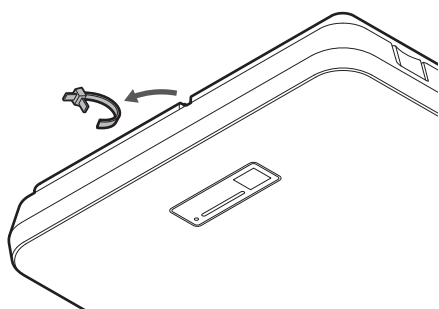


- 1 VESAマウント用ねじ穴
- 2 落下防止ワイヤー用ねじ

マイクロホンの取り外しかた

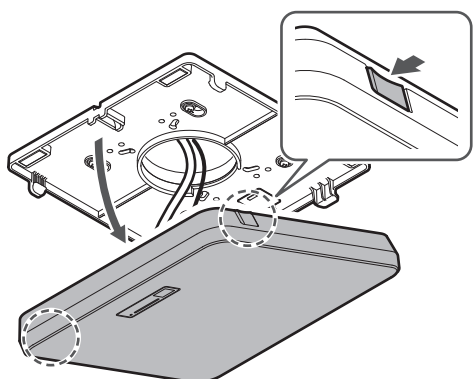
天井に直接取り付けている場合

- 1 マイクロホンとサーフェスマウントアダプターを固定している結束バンドを切り取ります。



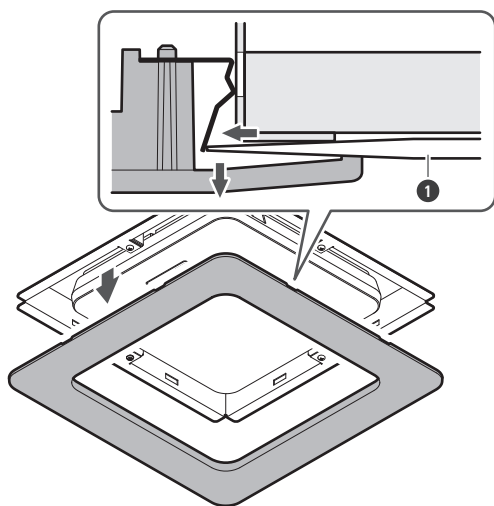
- 2 マイクロホンの取外ボタンを押し込みながら、サーフェスマウントアダプターから取り外します。

設置のしかた



天井に埋め込んで取り付けている場合

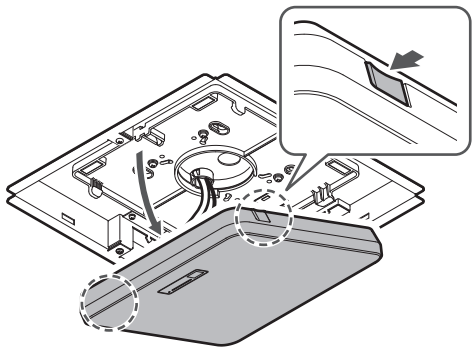
- 1 フラッシュマウントカバー側面の凹部（1辺2箇所）とフラッシュマウントアダプターの間にはマイナスドライバーを差し込み、フラッシュマウントカバーを浮かせるようにして取り外します。
 - フラッシュマウントカバーのツメがフラッシュマウントアダプターに引っ掛かっています。フラッシュマウントカバーの凹部にマイナスドライバーを奥まで差し込み、ツメを内側へ押しながらフラッシュマウントカバーを下方方向に浮かせてください。
 - ツメを1箇所取り外してフラッシュマウントカバーを浮かせると取り外しやすくなります。
 - フラッシュマウントカバーを取り外す際に安全ベルトを一緒に取り外してください。



① マイナスドライバー

- 2 マイクロホンの取外ボタンを押し込みながら、サーフェスマウントアダプターから取り外します。

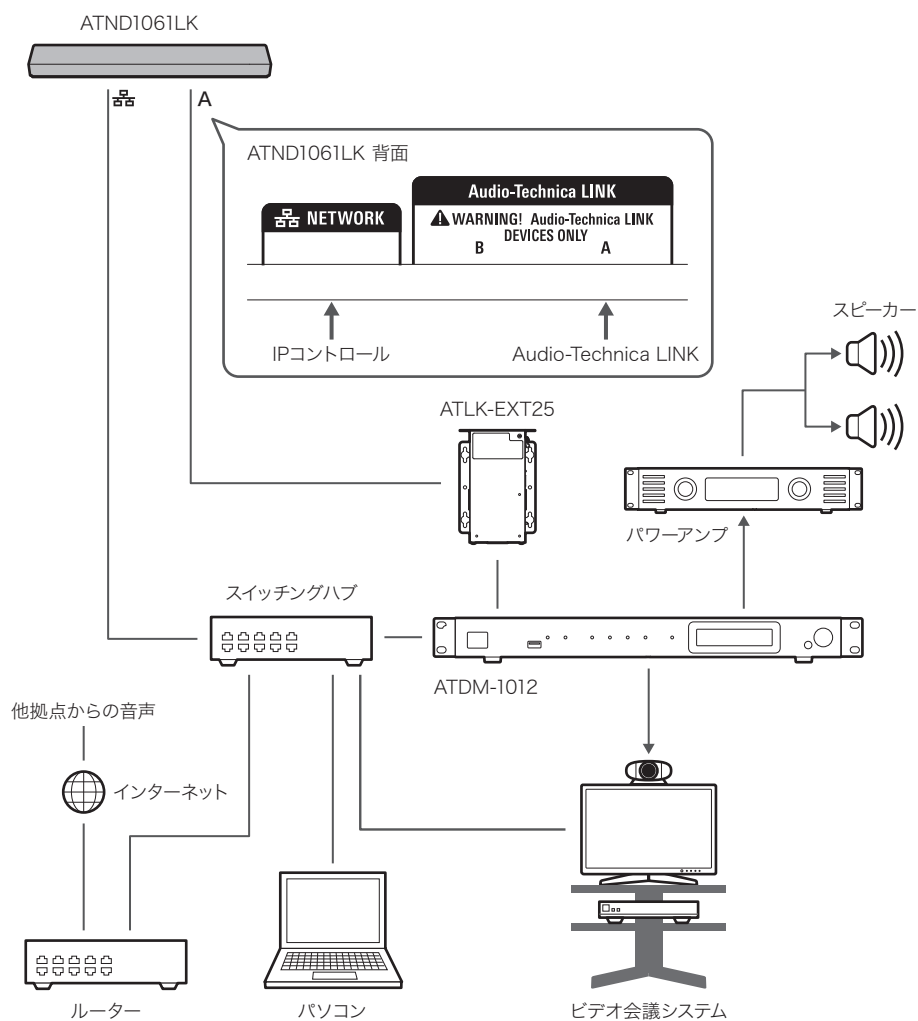
設置のしかた



接続のしかた

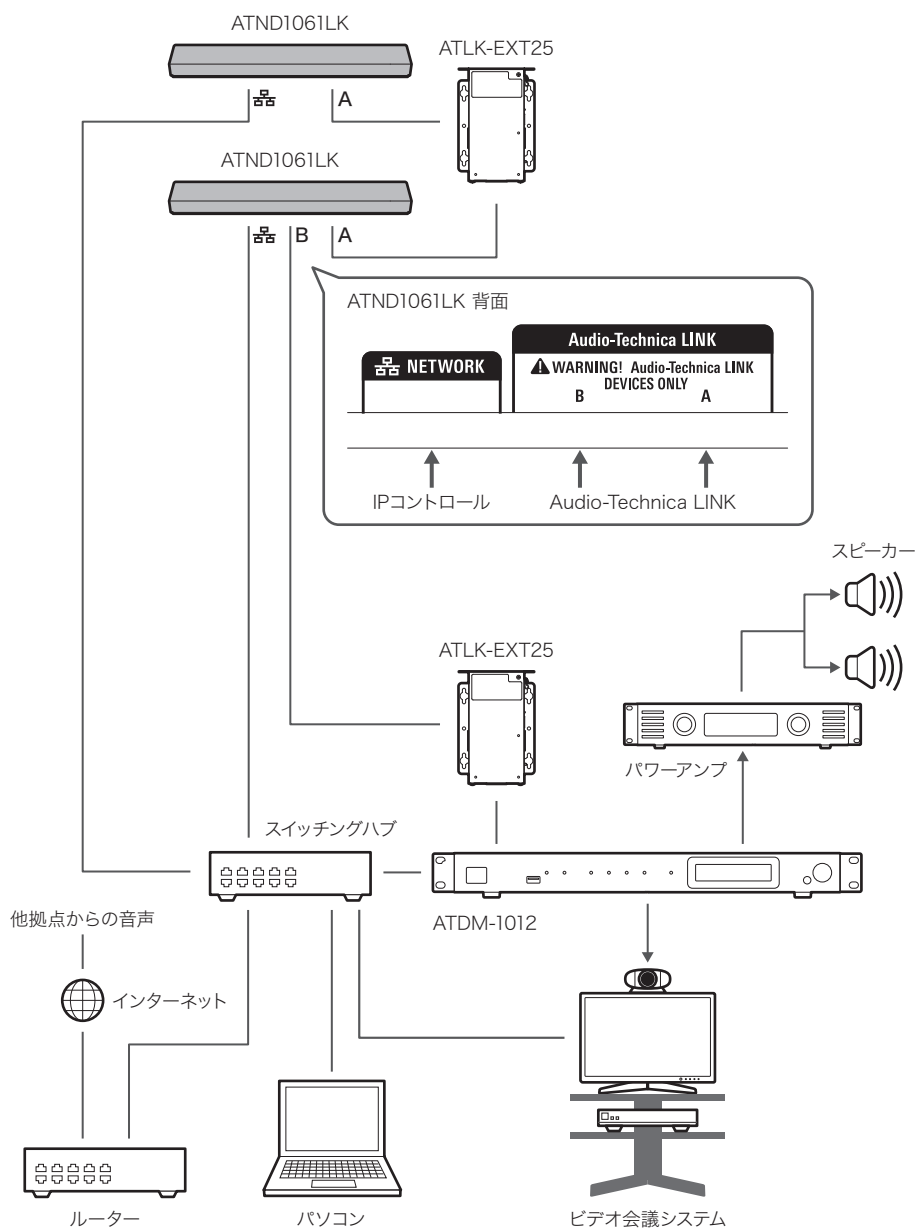
システム構成例

ATND1061LK (1台のみ接続)



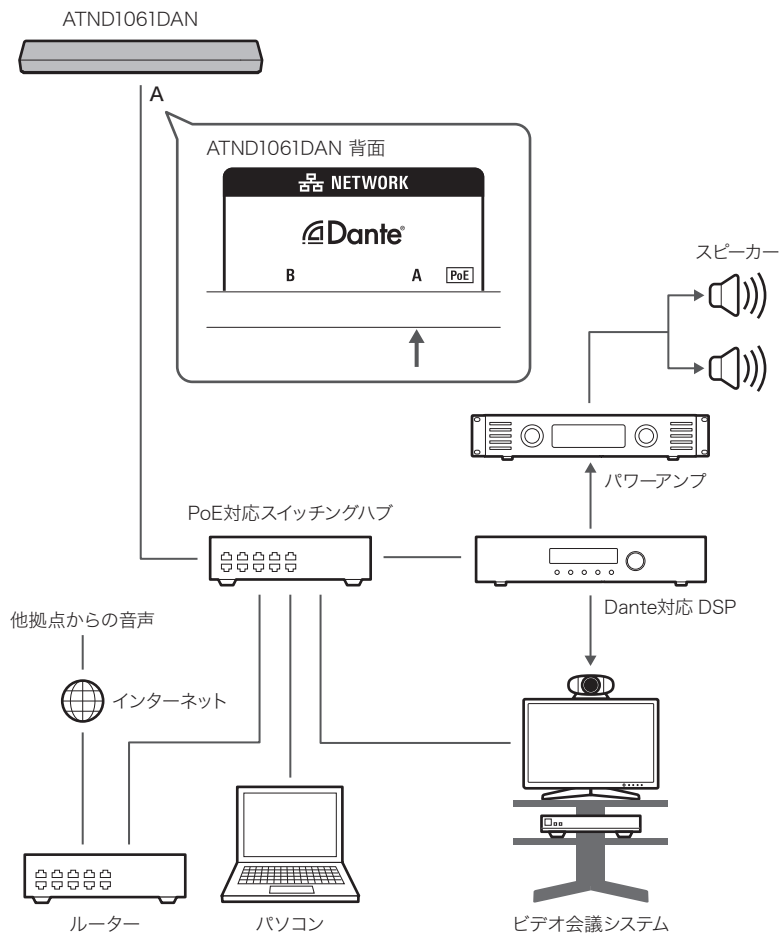
- ATLK-EXT25を使用する際は、ACアダプター（当社別売）または、PoE対応スイッチングハブが必要です。

ATND1061LK（複数台接続）

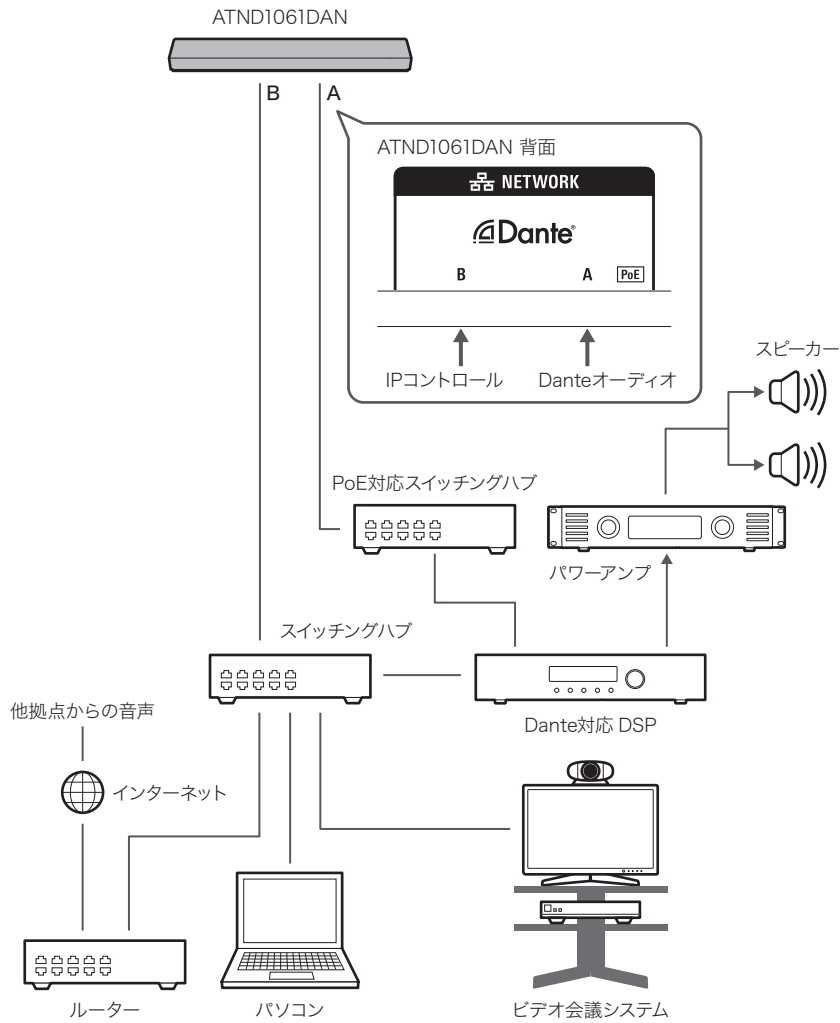


- ATLK-EXT25を使用する際は、ACアダプター（当社別売）または、PoE対応スイッチングハブが必要です。
- ATND1061LKの2台目以降の設置環境によって、ATLK-EXT25からの接続可能な台数が異なります。事前に当社提供のシミュレーターで確認するか、プロフェッショナルSS 課までお問い合わせください。

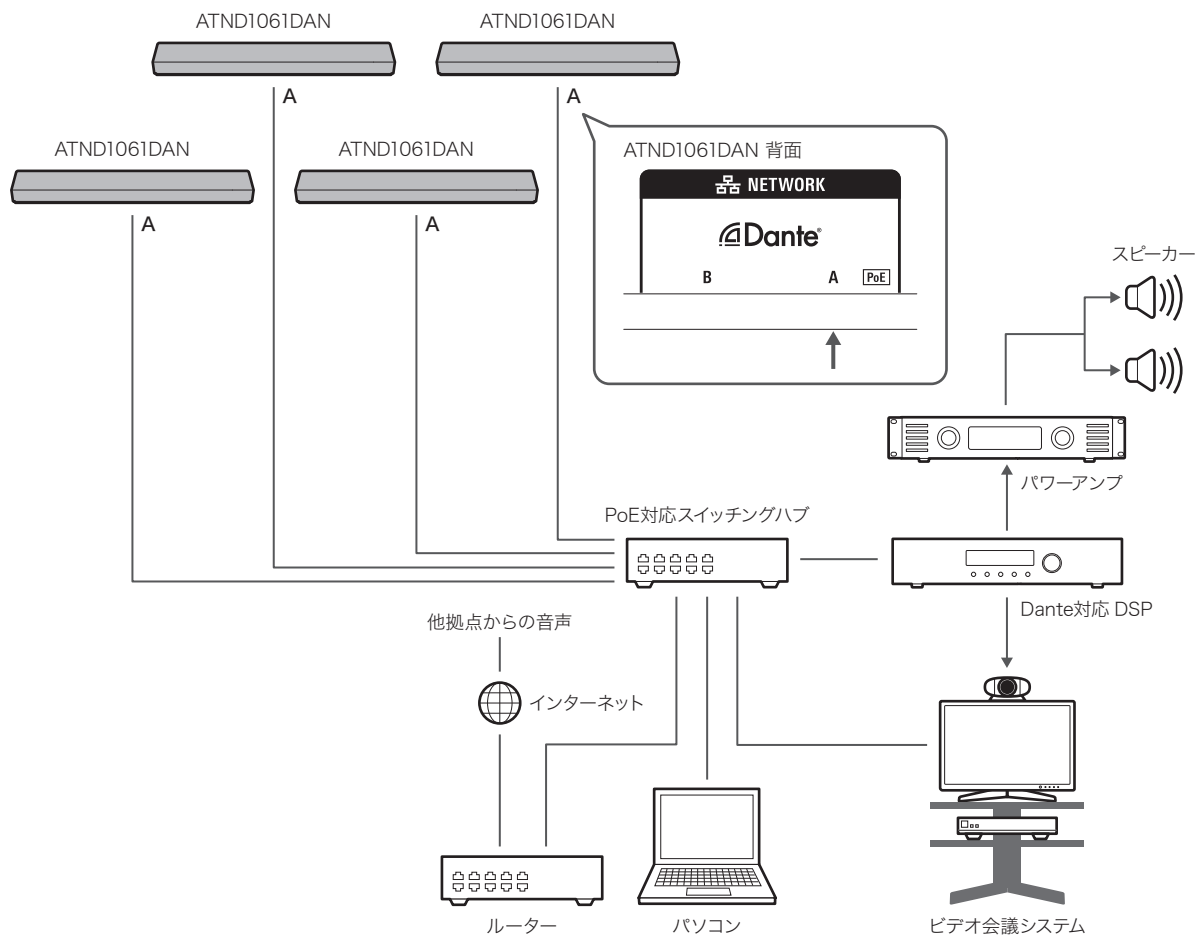
ATND1061DAN (シングルケーブルモード)



ATND1061DAN (スプリットモード)

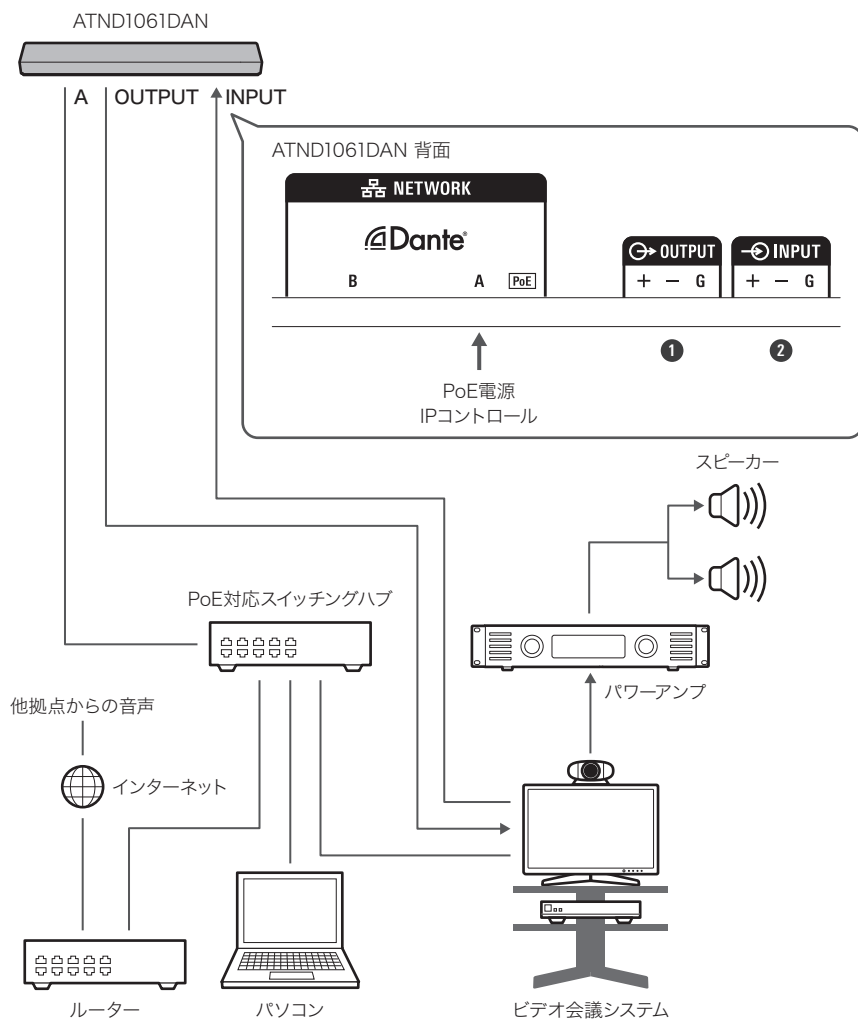


ATND1061DAN（複数台接続）



- 複数台接続時のオートミックスの設定について詳しくは、取扱説明書-Digital Microphone Manager編-を確認してください。

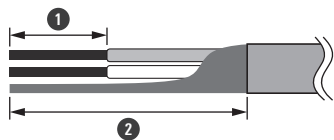
ATND1061DAN (シングルケーブルモード・アナログ入出力)



ユーロブロックコネクタの接続のしかた

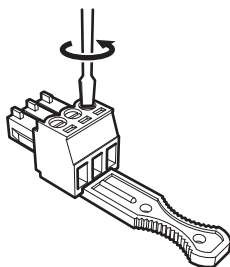
- 1 ケーブルを図のようにむき出して配線します。
 - より線ははんだ処理しないでください。

接続のしかた

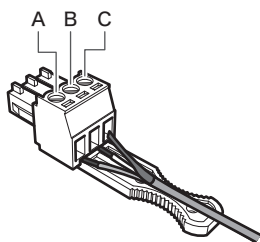


- ① 約5mm
- ② 約20mm

2 マイナスドライバーで、ねじを緩めます。



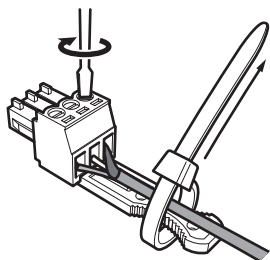
3 ピンサインを確認し、それぞれケーブルを接続します。



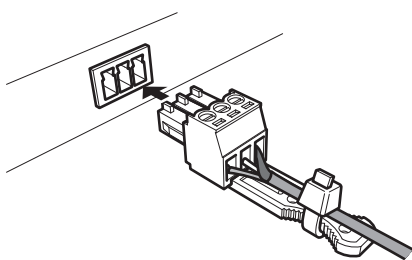
端子	ピンサイン
INPUT	A (+ : HOT) B (- : COLD) C (G : GND)
OUTPUT	A (+ : HOT) B (- : COLD) C (G : GND)
GPI	A (1 : GPI1) B (2 : GPI2) C (G : GND)

4 ねじを締め、結束バンドでケーブルをまとめます。

- 結束バンドは市販品をご使用ください。



- 5** ユーロブロックコネクタをマイクロホンに接続します。



GPI端子について

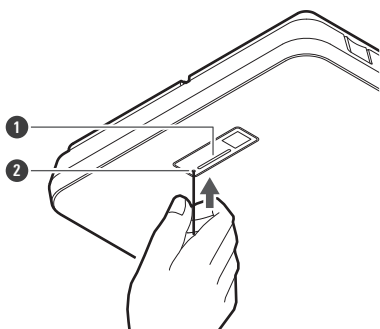
Digital Microphone Managerの「GPI Setting」でGPI端子の機能を選択できます。
GPI端子に割り当てた機能はGPI端子とGND端子をクローズすることで実行されます。
0.5秒以上クローズしてください。

項目名	説明
Mute	ミュートを実行します（オープン→クローズ）。 ミュートを解除します（クローズ→オープン）。
Power Save Mode	パワーセーブモードをON/OFFします（オープン→クローズ）。
Reboot	再起動を実行します（オープン→クローズ）。

リセットボタンについて

マイクロホンのリセットするには、リセットボタンを先の細いピンを差し込んで押し込んでください。

- リセット動作は通常動作モード時のみ可能です。
パワーセーブモード時にリセットボタンを押すと通常動作モードに復帰します。



- ① インジケータ
- ② リセットボタン

ネットワークモードの確認

- リセットボタンを短押しします。

インジケータ	IP Config Modeの設定
グリーン色点滅	Auto
オレンジ色点滅	Static

ネットワークリセット

次のネットワーク設定がリセットされます。

- IP Control & Web Remote Port Settings
- Allow Discovery
- IP Control Settings

- リセットボタンを長押し（約3秒）します。インジケータがレッド色／オレンジ色で交互に点灯したら、リセットボタンから手を離します。

- インジケータが交互に点灯している間にリセットボタンを短押しします。

- インジケータが交互に点灯してから5秒間操作がないと通常動作モードに戻ります。

≫ ネットワークリセットが実行されます。

ファクトリーリセット

すべての設定が工場出荷状態にリセットされます。

- 「Dante Network Configuration」の設定はリセットされません。

- 1** リセットボタンを長押し（約8秒）します。インジケータがグリーン色／オレンジ色で交互に点灯したら、リセットボタンから手を離します。
- 2** インジケータが交互に点灯している間にリセットボタンを短押しします。
 - インジケータが交互に点灯してから5秒間操作がないと通常動作モードに戻ります。

≫ ファクトリーリセットが実行されます。ファクトリーリセット後は自動的に再起動します。



- リセット中はマイクロホンに接続しているケーブルを抜かないでください。

Digital Microphone Managerについて

Digital Microphone Managerはオーディオテクニカのデジタルマイクロホン（対応モデル）の運用をサポートするアプリケーションです。プロジェクトの作成やマイクロホン設定、オーディオ設定だけでなく、実際にマイクロホンを設置する部屋のレイアウトを想定した收音範囲の設定が可能です。オンライン環境では、リアルタイム編集や話者位置の表示ができますので、施工現場での詳細設定の役に立ちます。

- 本製品をご使用になるには、Digital Microphone Managerが必要です。
- 当社ホームページ（<https://www.audio-technica.com/>）からご使用の国または地域を選択し、各サイトよりダウンロードしてください。
- Digital Microphone Managerをインストールしたあと、起動して本製品の設定を行ってください。
- 設定について詳しくは取扱説明書 -Digital Microphone Manager編-を確認してください。

Audio-Technica LINKについて

ATND1061LKは機器間の音声信号の伝送と電源供給に、独自フォーマット「Audio-Technica LINK」を採用しています。

- デイジーチェーン接続でマルチチャンネル伝送が可能です。
- 低レイテンシーの高速信号伝送により、安定した制御とマルチチャンネルの非圧縮音声信号の伝達が可能です。
- ATND1061LKからのマルチチャンネル音声信号をミキサーの入力チャンネルへ個別にアサインが可能です。
- イーサネット規格に準拠し、汎用的なLANケーブルによる接続が可能のため、高い施工性を実現しています。



• LANケーブルはCat5e以上、導体サイズ24AWGの径以上、シールド付きを必ず使用してください。



• ATUC-50シリーズ、ATUC-IRシリーズとは接続できません。

Dante Controllerについて (ATND1061DANのみ)

- ATND1061DANはDanteネットワークオーディオに対応しています。
Dante Controller (Audinate提供のアプリケーション) を使用してDante機器への入出力設定ができます。Dante ControllerについてはAudinateホームページ (<https://www.audinate.com>) を確認してください。
- ATND1061DANはAES67モードでの動作をサポートしています。AES67で使用する場合は、Dante ControllerでAES67モードを有効にし、マイクロホンを再起動してください。詳しくは、Audinate社にお問い合わせください。

Danteチャンネルリスト

Input (Dante Transmitter)

Dante Controllerでの表示名	説明
AEC Ref In	AECリファレンス信号として使用するデジタル音声信号を入力します。
Sum In	複数台接続時のオートミックスに使用します。主となるマイクロホン (Primary) からの制御信号を入力します。
Chain In	複数台接続時のオートミックスに使用します。前段のマイクロホンからの制御信号を入力します。
Mix In	複数台接続時のオートミックスに使用します。主となるマイクロホン (Primary) はここに他のマイクロホン (Follower) からのオートミックス信号を入力します。

Output (Dante Receiver)

Dante Controllerでの表示名	説明
CH1	カバレッジゾーンの音声出力
CH2	プライオリティゾーンの音声出力 # 1
CH3	プライオリティゾーンの音声出力 # 2
CH4	プライオリティゾーンの音声出力 # 3
CH5	プライオリティゾーンの音声出力 # 4
CH6/AutoMix	プライオリティゾーンの音声出力 # 5またはオートミックス信号出力 (選択可能)
AEC Ref/Voice Lift Out	オートミックスチャンネルのAECに使用するAECリファレンス信号を出力します。またはボイスリフトを出力します。
Sum Out	複数台接続時のオートミックスに使用します。次のマイクロホンへ制御信号を出力します。

ウェブリモートについて

ウェブリモートとは

ウェブリモートとは、マイクロホンをコントロールするウェブアプリケーションです。WindowsパソコンまたはMac（以下コントロール機器）から、次の項目をリモートコントロールできます。

- マイクロホンの状態確認
- マイクロホンの各種設定変更

Locateとは

Locateは、ウェブリモート用ランチャーアプリケーションです。コントロール機器を接続したあと、Locateを起動します。Locateを使用すると、設置されているマイクロホンのIPアドレスを入力することなく簡単にウェブリモートにアクセスできます。

- マイクロホンのIPアドレスがわかる場合は、Locateを使用しないでウェブリモートを起動することもできます。

推奨環境

ウェブリモートおよびLocateが動作するOS

- Microsoft Windows 10以降
- macOS Big Sur以降

ウェブリモート推奨ウェブブラウザ

- Google Chrome (Windows)
- Mozilla Firefox (Windows)
- Safari (macOS)



- ウェブリモートの最小画面サイズは1024x768ピクセルです。コントロール機器のディスプレイモニターは、ウェブリモート画面をウェブブラウザで表示できるサイズのモニターをご使用ください。

ウェブリモートの事前準備

マイクロホンをコントロール機器と接続する

- 1 コントロール機器がマイクロホンと同じネットワークになるように有線または無線で接続します。
- 2 コントロール機器のネットワーク設定を行い、ネットワークに接続します。



- 工場出荷時、マイクロホンの「IP Config Mode」は「Auto」に設定されています。IPアドレスを固定して接続する場合は「IP Config Mode」を「Static」に設定してください。

Locateをセットアップする

- 1 コントロール機器にLocateのインストーラー/アプリケーションをダウンロードします。
 - 当社ホームページ (<https://www.audio-technica.com/>) からご使用の国または地域を選択し、各サイトよりダウンロードしてください。
- 2 ダウンロードしたsetup.exeをダブルクリックします。
 - ≫ セットアップウィザードが表示されます。
- 3 画面上に表示された指示に従い、Locateをインストールします。
 - ≫ インストールが完了すると、デスクトップにLocateのアイコンが表示されます。
- 4 マイクロホンがコントロール機器と同じネットワーク上に接続されていることを確認したあと、Locateのアイコンをダブルクリックします。
 - ≫ Locateが起動します。ネットワークに接続されているマイクロホンが自動検出されます。
- 5 ウェブリモートコントロールを行いたいマイクロホンを選び、「Open」をクリックします。
 - ≫ Setting & Maintenance画面が表示されます。



- Locateの「Identify」は使用できません。接続しているマイクロホンを確認するには、Digital Microphone Managerを使用してください。

ウェブリモートの起動

Locateから起動する

- 1 コントロール機器にインストールしたLocateを起動します。
- 2 ウェブリモートを起動させたいマイクロホンをリストから選択します。
» ウェブリモートが起動し、Setting & Maintenance画面が表示されます。

IPアドレスを直接指定して起動する

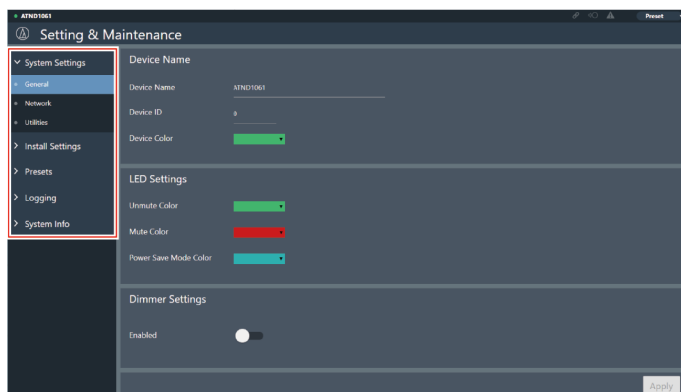
マイクロホンのIPアドレスがわかる場合は、直接IPアドレスを指定してウェブリモートを起動することができます。

- 1 コントロール機器のウェブブラウザを起動します。
- 2 ウェブリモートを起動させたいマイクロホンのIPアドレスを入力します。
» ウェブリモートが起動し、Setting & Maintenance画面が表示されます。

Setting & Maintenance画面の基本操作

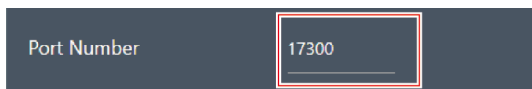
システム全体に関わる詳細設定や、メンテナンス時や障害発生時に使用するユーティリティが準備されています。

- 1 「>」をクリックして設定メニューを開き、設定項目を選択します。

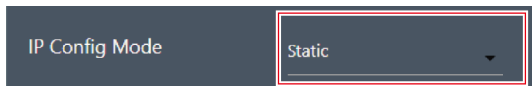


ウェブリモートについて

- 2 テキスト入力の設定は、設定欄をクリックして入力します。



- 3 プルダウン選択の設定は、設定欄の「▼」をクリックしてプルダウンから選択します。



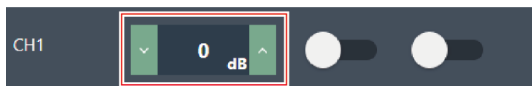
- 4 スイッチ切り替えの設定は、スイッチをクリックします。

- クリックするたびにON（青色） / OFF（色なし）が切り替わります。

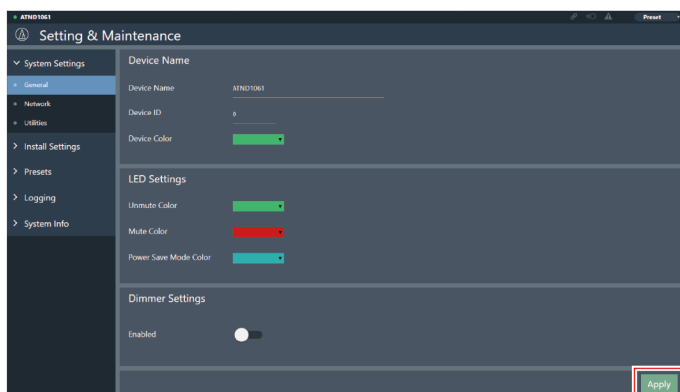


- 5 数値の設定は、設定欄の「v」または「^」をクリックします。

- クリックするたびにカウントダウン / アップします。



- 6 「Apply」をクリックします。



≫ 設定が適用されます。

General (System Settings)

Device Name

項目名	説明
Device Name	マイクロホンの名前を設定します。
Device ID	マイクロホンのIDを設定します。
Device Color	Digital Microphone Managerでのマイクロホンの表示色を設定します。

LED Settings

項目名	説明
Unmute Color	ミュート解除時のマイクロホンのインジケータ色を設定します。
Mute Color	ミュート時のマイクロホンのインジケータ色を設定します。
Power Save Mode Color	パワーセーブモード時のマイクロホンのインジケータ色を設定します。

Dimmer Settings

項目名	説明
Enabled	マイクロホンのインジケータの明るさを設定します。 「ON」（青色）に設定するとマイクロホンのインジケータが暗くなります。

Network (System Settings)

DANTE Network Configuration (ATND1061DANのみ)

項目名	説明
Mode	「Single cable」に設定すると、1本のケーブルで出力します。「Split」に設定すると、IPコントロールを別のケーブルで出力します。複数のケーブルで接続しますので、接続を確認してください。
Latency	Danteポートのレイテンシーを設定します。

Dante & Audio Port Settings (ATND1061DANのみ)

項目名	説明
IP Config Mode	IPアドレスの取得方法を設定します。 「Auto」に設定すると、DHCPサーバーなどが自動でIPアドレスを割り当てます。 「Static」に設定すると、固定IPアドレスを指定します。
IP Address ^[1]	IPアドレスを設定します。
Subnet Mask ^[1]	サブネット・マスクを設定します。
Gateway Address ^[1]	ゲートウェイ・アドレスを設定します。

[1] 「IP Config Mode」を「Static」に設定した場合に設定できます。

IP Control & Web Remote Port Settings

項目名	説明
IP Config Mode	IPアドレスの取得方法を設定します。 「Auto」に設定すると、DHCPサーバーなどが自動でIPアドレスを割り当てます。 「Static」に設定すると、固定IPアドレスを指定します。
IP Address ^[1]	IPアドレスを設定します。
Subnet Mask ^[1]	サブネット・マスクを設定します。
Gateway Address ^[1]	ゲートウェイ・アドレスを設定します。

[1] 「IP Config Mode」を「Static」に設定した場合に設定できます。

Allow Discovery

項目名	説明
Enabled	同じネットワーク内にあるマイクロホンの自動検出を設定します。 「ON」（青色）に設定すると自動検出可能になります。

IP Control Settings

項目名	説明
Port Number	IPコントロールポートの番号を表示します。
Notification	IPコントロール時にマイクロホンからの通知を受け取るかを設定します。「ON」（青色）に設定すると通知を受け取ります。
Audio Level Notification ^[1]	IPコントロール時にマイクロホンから音声レベルの通知を受け取るかを設定します。「ON」（青色）に設定すると、通知を受け取ります。
Camera Control Notification ^[1]	IPコントロール時にマイクロホンから設定したカメラエリアに音声が入ったかどうかの通知を受け取るかを設定します。「ON」（青色）に設定すると、通知を受け取ります。
Multicast Address ^[1]	マルチキャストのアドレスを設定します。
Multicast Port Number ^[1]	マルチキャストのポート番号を設定します。

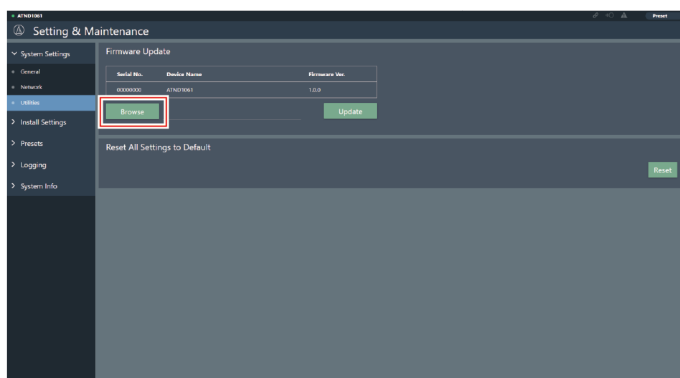
[1] 「Notification」を「ON」に設定した場合に設定できます。

Utilities (System Settings)

Firmware Update

マイクロホンのファームウェアをアップデートします。

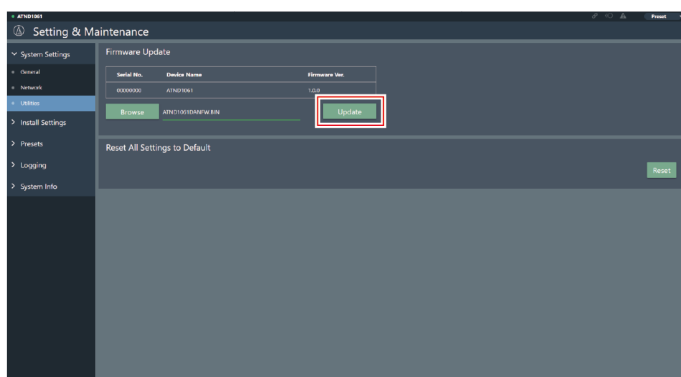
- 1 画面に表示されている「Serial No.」（シリアル番号）、「Device Name」（マイクロホン名称）、「Firmware Ver.」（ファームウェアバージョン）で、マイクロホンがアップデート対象であるかを確認します。
- 2 「Browse」をクリックします。



- 3 ファイル選択画面からバージョンアップファイルを選択して開きます。

ウェブリモートについて

4 「Update」をクリックします。



≫ アップデートが開始されます。アップデートが完了すると、完了画面が表示され、マイクロホンが自動的に再起動します。

5 バージョンの確認をします。

- 「System Info」の項目で正しくアップデートされていることを確認してください。

6 マイクロホンをリセットし、工場出荷時の設定に戻します。

7 ご使用のウェブブラウザのキャッシュを消去します。



- ファームウェアアップデート後にマイクロホンをリセットしなかった場合、VISCA over IPでカメラ連動機能を使用しているとポート番号が「80」になってしまう場合があります。その場合は、ポート番号を設定し直してください。

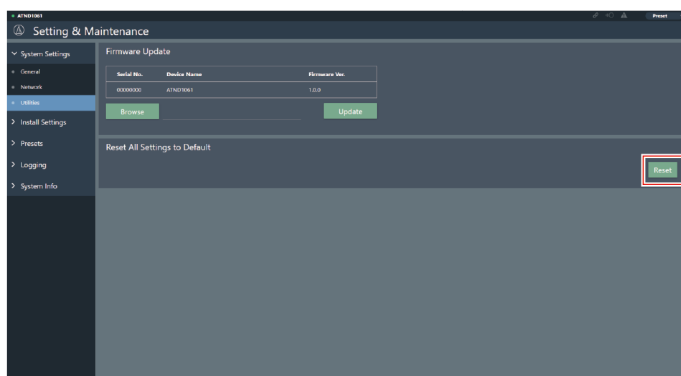
Reset All Settings to Default

マイクロホンの全設定を工場出荷時の設定に戻します。

- ファームウェアは現在のバージョンのままです。

1 「Reset」をクリックします。

ウェブリモートについて



2 確認画面を確認し、「Yes」をクリックします。

≫ 初期化が完了すると完了画面が表示されます。

Audio (Install Settings)

Beam CHs

CH1～CH6のオーディオ設定ができます。

項目名	説明
Input Gain	音声入力の入力ゲインを設定します。
Low Cut	入力音声の低域をカットするかを設定します。 「ON」（青色）に設定すると入力音声の低域をカットします。
4Band EQ	音声入力に4バンドEQを適用するかを設定します。 「ON」（青色）に設定すると適用します。
Level	音声入力レベルを設定します。
Mute	ミュート／ミュート解除を設定します。 「ON」（青色）に設定するとミュート状態になります。
Gain Share	オートミックスを有効にするかを設定します。 「ON」（青色）に設定すると有効になります。

ウェブリモートについて

Analog Input

項目名	説明
Input Type	Analog Inputチャンネルの入力タイプを設定します。
Phantom ^[1]	ファントム電源を有効にするかを設定します。「ON」（青色）に設定すると有効になります。
4Band EQ	音声入力に4バンドEQを適用するかを設定します。「ON」（青色）に設定すると適用します。
Level	音声入力レベルを設定します。

[1] 「Input Type」を「Mic」に設定した場合に設定できます。

DSP Mode

項目名	説明
DSP Mode	オーディオ設定のDSPモードを設定します。
Voice Lift Output Select	ボイスリフト機能で收音する範囲を設定します。

Auto Mix CH

項目名	説明
AEC	アコースティックエコーキャンセラーを有効にするかを設定します。「ON」（青色）に設定すると有効になります。
AEC Reference	リファレンス信号を設定します。通常は他拠点にある端末からの音声を選択します。
NC	ノイズキャンセルを有効にするかを設定します。「ON」（青色）に設定すると有効になります。
AGC	オートゲインコントロールを有効にするかを設定します。「ON」（青色）に設定すると有効になります。
Level	音声出力レベルを設定します。

Analog Output

項目名	説明
Unity	ユニティレベルを設定します。
Level	音声出力レベルを設定します。

Voice Lift CH

「DSP Mode」を「Voice Lift Mode」に設定した場合のみ表示されます。

ウェブリモートについて

項目名	説明
Processing Level	ボイスリフト機能の抑制の強さを設定します。
Input Gain	音声入力の入力ゲインを設定します。
4Band EQ	音声入力に4バンドEQを適用するかを設定します。 「ON」（青色）に設定すると適用します。
Level	音声入力レベルを設定します。

Dante Tx#6 Signal (ATND1061DANのみ)

項目名	説明
Dante Tx#6 Signal	デジタルアウトプットの6番目のアサインを変更できます。「CH6」に設定すると、後段の機器でミックスします。「Automix」に設定すると、マイクロホンのミックス機能を使用します。

Camera

Device

項目名	説明
Enabled	カメラ連動機能を設定します。「ON」（青色）に設定すると、カメラ連動機能が使用可能になります。
Protocol ^[1]	使用するプロトコルを選択します。
IP Address ^[1]	使用するカメラのIPアドレスを入力します。
Port Number ^[1]	使用するプロトコルによって次のとおり設定します。 VISCA over IP : 52381 ^[2] Panasonic : カメラで設定したポート番号

[1] 「Enable」を「ON（青色）」に設定した場合に設定できます。

[2] VISCA over IPはソニー株式会社が開発した通信規格で、IPネットワーク上でカメラの遠隔制御を行うものです。通信規格の仕様上、指定通信ポートは「52381」を使用します。VISCA over IPでカメラ連動機能を使用する場合は、設定項目内の「Port Number」を「52381」に設定してください。

Talk Setting

項目名	説明
Talk To Recall Preset	話者が話し始めてから、何秒でカメラのプリセットが呼び出されるか（カメラが動くか）を設定します。 この機能は、短い発言ですぐにカメラが動かないようにする場合などのときに設定します。

ウェブリモートについて

Silent Setting

項目名	説明
Enabled	無音時間を設定します。「ON」（青色）に設定すると無音時間設定が使用可能になります。
Time To Go Back Home ^[1]	無音状態が何秒続いたら、カメラのプリセットを呼び出すか（カメラがどの位置に戻るか）を設定します。この機能は、無音状態では特定の人物にフォーカスするのではなく、全体を映すようにするなどする場合に設定します。
Position ^[1]	無音状態時にどこにカメラを戻すかを設定します。

[1] 「Enable」を「ON（青色）」に設定した場合に設定できます。

Camera Preset

カメラエリアグループとカメラ側の呼び出すプリセットを紐づけする設定を行います。カメラ側のプリセット番号を確認して、カメラ側のどのプリセットを呼び出すかを設定してください。

Presets

Presets

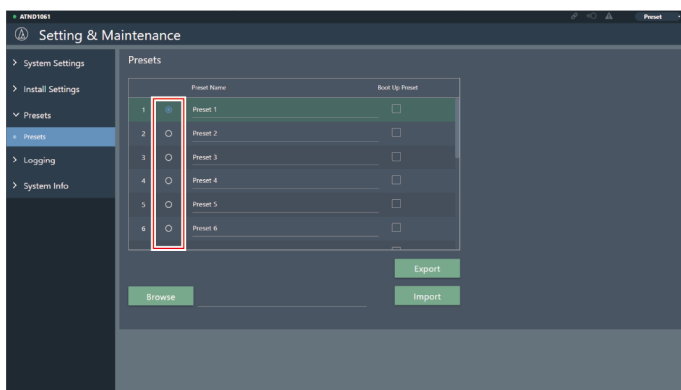
項目名	説明
Preset Name	プリセット名が表示されます。
Boot Up Preset	マイクロホンを起動したときに呼び出すプリセットを指定します。

プリセットを書き出す

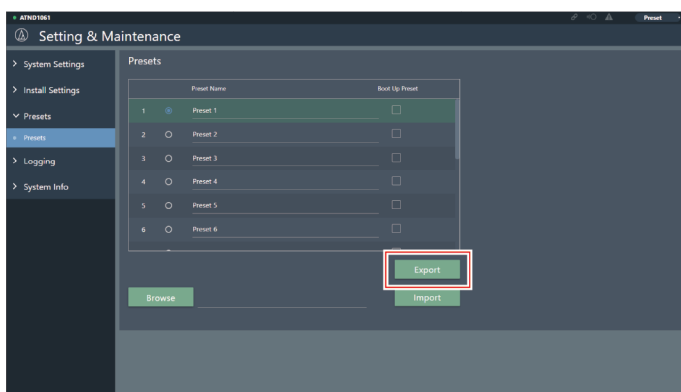
プリセットをファイルに書き出します。

- 1 ファイルに書き出すプリセットのボタンをクリックします。

ウェブリモートについて



2 「Export」をクリックします。



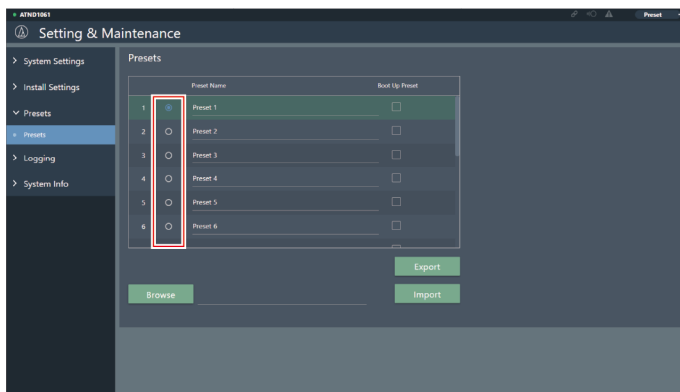
3 保存先・ファイル名を指定して書き出します。

プリセットを読み込む

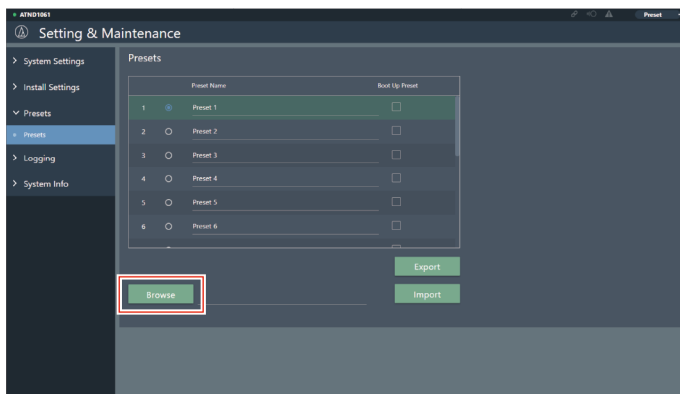
書き出したプリセットファイルを読み込みます。

1 読み込み先のプリセットのボタンをクリックします。

ウェブリモートについて

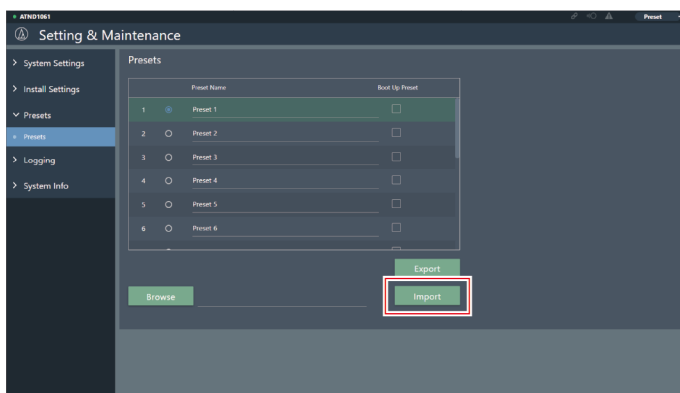


2 「Browse」をクリックします。



3 ファイル選択画面からプリセットファイルを選択して開きます。

4 「Import」をクリックします。



≫ プリセットが読み込まれます。

Logging

ログメッセージに関する設定とログファイルのダウンロードをします。

項目名	説明
Enabled	ログメッセージを保存するか設定します。 「ON」（青色）に設定するとログメッセージを保存します。
Destination ^[1]	ログメッセージを内部メモリに書き出すか、またはSyslogサーバーに転送するかを設定します。
Log File	「Download」をクリックすると、内部メモリに記録されたログファイルをダウンロードできます。

[1] 「Enabled」をONに設定した場合に設定できます。



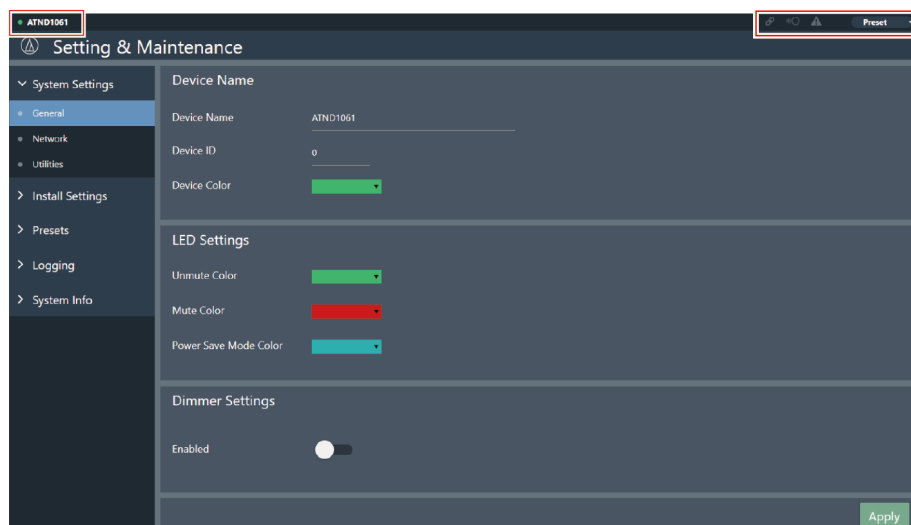
- Syslogとは、IPネットワーク上でログメッセージを転送するための標準規格です。コンピューターシステムの管理やセキュリティ監視を目的として使用されています。

System Info

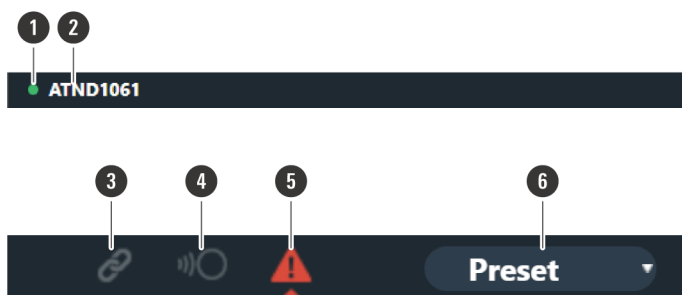
各種ネットワーク設定、マイクロホンのシリアル番号やファームウェアバージョンなど、システムに関する情報を表示します。「Export」をクリックすると、システム情報をテキストファイルに書き出すことができます。

ヘッダー部分について

画面上部のヘッダー部分にステータスやプリセット名が表示されます。



ウェブリモートについて



1 マイクロホンカラー


マイクロホンを複数台操作する際の目印です。

2 マイクロホン名

任意に設定された名称を表示します。

3 Audio-Technica LINKステータス (ATND1061LKのみ)

Audio-Technica LINKの接続状態を表示します。

 : Audio-Technica LINKが正しく接続されていません。

 : Audio-Technica LINKが正しく接続されています。

 /  : Audio-Technica LINKに障害が発生しています。

4 IPリモートステータス

IP 経由による制御が行われていることを表示します。


 : リモート制御を受けていません。


 : リモート制御を受けています。

 /  : リモート制御に障害が発生しています。

5 エラーステータス

エラーの状態を表示します。

 : エラーがありません。

 : エラーがあります。

6 プリセット

プリセットの選択と読み込まれたプリセット名を表示します。

エラー内容表示について

アイコンに三角マークが表示されている場合、アイコンをクリックするとエラー内容が表示されます。エラー内容を確認したあと、アイコンからカーソルを離すと、三角マークは表示されなくなります。



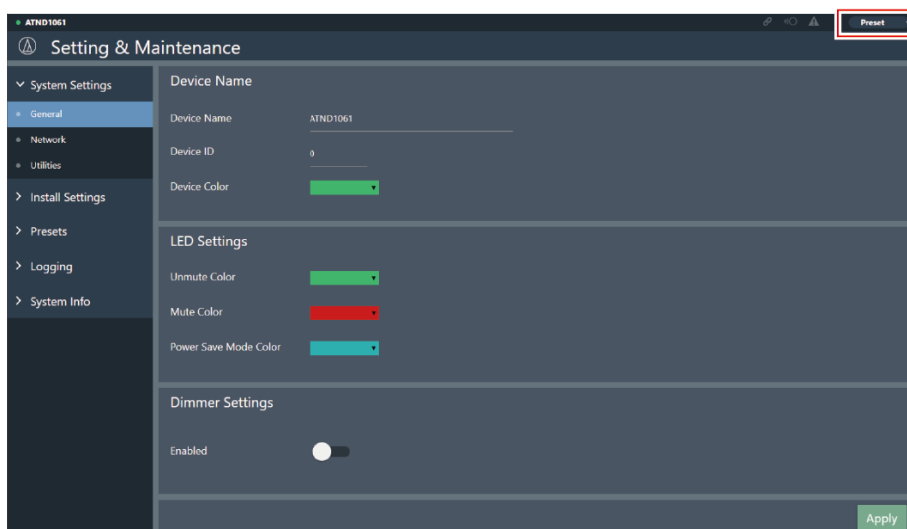
プリセットについて

ウェブリモートやDigital Microphone Managerで設定したビームゾーン・オーディオ・カメラエリア・Setting & Maintenanceの一部の設定を、プリセットとして最大16個まで保存できます。使用シーンによって設定を切り替えることができます。

プリセットを保存する

1 「Preset」 をクリックします。

- 「Preset」には、現在のプリセットの名前が表示されます。



2 プルダウンの「Save Preset」 をクリックします。

3 保存したいプリセットのスロットをクリックします。

4 名前を入力します。

5 「Save」 をクリックします。

- プリセットの保存に数分かかる場合があります。
- » マイクロホンの設定がプリセットに保存されます。

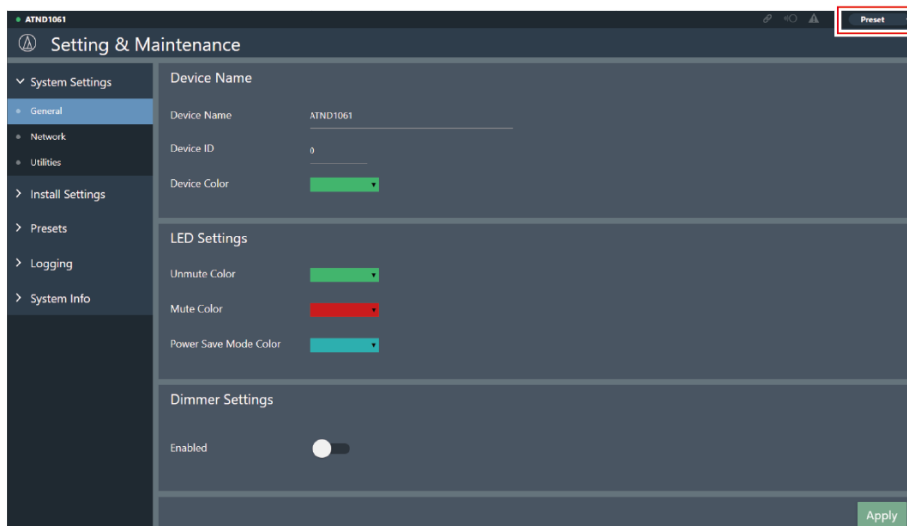


- プリセットの書き出し・読み込みについては、Setting & Maintenanceの「Presets」(p.69)を確認してください。

ウェブリモートについて

プリセットを呼び出す

- 1 「Preset」 をクリックします。
 - 「Preset」 には、現在のプリセットの名前が表示されます。



- 2 ブルダウンの「Recall Preset」 をクリックします。

- 3 呼び出したいプリセットをクリックします。

≫ マイクロホンにプリセットの設定が反映されます。

機能一覧

項目名		設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム	Web Remote
Device Name	Device Name	(最大30文字まで (ASCIIコードのみ))	ATND1061	-	✓	✓
	Device ID	1~999	0	-	✓	✓
	Device Color	グリーン、イエロー、レッド、ピンク、ブルー、シアン	グリーン	-	✓	✓
Command Link	Preset Link	On、Off	Off	-	✓	-
	Mute Link	On、Off	Off	-	✓	-
	Power Save Mode Link	On、Off	Off	-	✓	-
	Link Group	1~128	1	-	✓	-
GPI Settings	Port1	Mute、Power Save Mode、Reboot、Camera Control	Mute	✓	✓	-
	Port2	Mute、Power Save Mode、Reboot、Camera Control	Power Save Mode	✓	✓	-
Dante Network Configuration ^[1]	Mode	Single Cable、Split	Single Cable	-	✓	✓
	Latency	0.25msec、0.5msec、1msec、2msec、5msec	0.5msec	-	✓	✓
Dante & Audio Port Settings ^[1]	IP Config Mode	Auto、Static	Auto	-	✓	✓
	IP Address	0.0.0.0~255.255.255.255	-	-	✓	✓
	Subnet Mask	0.0.0.0~255.255.255.255	-	-	✓	✓
	Gateway Address	0.0.0.0~255.255.255.255	-	-	✓	✓
IP Control & Web Remote Port Settings	IP Config Mode	Auto、Static	Auto	-	✓	✓
	IP Address	0.0.0.0~255.255.255.255	-	-	✓	✓
	Subnet Mask	0.0.0.0~255.255.255.255	-	-	✓	✓
	Gateway Address	0.0.0.0~255.255.255.255	-	-	✓	✓
Allow Discovery	Enabled	On、Off	On	-	✓	✓

機能一覧

項目名		設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム	Web Remote
IP Control Settings	Port Number	00001~65535	17300	-	✓	✓
	Notification	On、Off	Off	-	✓	✓
	Audio Level Notification	On、Off	Off	-	✓	✓
	Camera Control Notification	On、Off	Off	-	✓	✓
	Multicast Address	0.0.0.0~255.255.255.255	239.0.0.100	-	✓	✓
	Multicast Port Number	00001~65535	17000	-	✓	✓
Beam Settings	Beam Sensitivity	Low、Mid、High	Mid	✓	✓	-
	Auto Attenuation	On、Off	On	✓	✓	-
	Attenuation Level	-∞dB~-3.0dB	-14.0dB	✓	✓	-
	Hold Time	0.0sec~10.0sec	1.5sec	✓	✓	-
	Room Type	Dry、Live、Reverberant	Live	✓	✓	-
DSP Mode	DSP Mode	AEC Mode、Voice Lift Mode	AEC Mode	-	✓	✓
	Voice Lift Output Select	Coverage、Priority、Coverage&Priority	Coverage&Priority	-	✓	✓
Dante Tx#6 Signal ^[1]	Dante Tx#6 Signal	Priority 5、Auto Mix	Auto Mix	✓	✓	✓
LED Settings	Unmute Color	ブラック(点灯なし)、レッド、オレンジ、イエロー、ピンク、パープル、ブルー、アクア、グリーン、シアン、ホワイト	グリーン	✓	✓	✓
	Mute Color	ブラック(点灯なし)、レッド、オレンジ、イエロー、ピンク、パープル、ブルー、アクア、グリーン、シアン、ホワイト	レッド	✓	✓	✓

機能一覧

項目名		設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム	Web Remote	
	Power Save Mode Color	ブラック(点灯なし)、レッド、オレンジ、イエロー、ピンク、パープル、ブルー、アクア、グリーン、シアン、ホワイト	シアン	✓	✓	✓	
LED Dimmer	LED Dimmer	On、Off	Off	✓	✓	✓	
Allow Control	Mute	On、Off	On	✓	✓	-	
	Power Save Mode	On、Off	On	✓	✓	-	
	Preset	On、Off	On	✓	✓	-	
Presets	Preset Name	(最大30文字まで)	Preset 1~16	✓	✓	✓	
	Boot Up Preset	1~16、Non	-	-	✓	✓	
Device	Enabled	On、Off	Off	-	✓	✓	
	Protocol	Panasonic AW-UE20/40/50、VISCA over IP	VISCA over IP	-	✓	✓	
	IP Address	0.0.0.0~255.255.255.255	-	-	✓	✓	
	Port Number	00001~65535	52381	-	✓	✓	
Talk Setting	Time To Recall Preset	0.5sec~10.0sec	0.5sec	✓	✓	✓	
Silent Setting	Enabled	On、Off	On	✓	✓	✓	
	Time To Go Back Home	0.5sec~100.0sec	0.5sec	✓	✓	✓	
	Position	Home、Preset1~Preset100	Home	✓	✓	✓	
Logging	Enabled	On、Off	On	-	✓	✓	
	Destination	Internal、Syslog	Internal	-	✓	✓	
Device	Position (feet/mm)	X		X:16.4feet/5000mm	-	✓	-
		Y		Y:16.4feet/5000mm	-	✓	-
	Altitude	3.3feet/1000mm~部屋の高さ	2600mm/8.53ft	-	✓	-	
Channel Settings	Beam CH 1~6	CH #	Coverage、Priority1~5	-	-	✓	
		Input Gain	0dB~+30dB	0dB	✓	✓	✓
		Lowcut	On、Off	Off	✓	✓	✓

機能一覧

項目名		設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム	Web Remote
	4 Band EQ	On、Off	Off	✓	✓	✓
	CH Name	(最大10文字まで)	Coverage : CH1 Priority1~5 : CH2~6	✓	✓	-
	CH Color	グリーン、イエロー、ブラウン、レッド、ピンク、ブルー、グレー、ダークグレー	CH1 : グリーン CH2 : イエロー CH3 : ブラウン CH4 : レッド CH5 : ピンク CH6 : ブルー	✓	✓	-
	Level	$-\infty$ 、-120.0dB~10.0dB	0.0dB	✓	✓	✓
	CH Mute	On、Off	Off	✓	✓	✓
	Analog Input	Mode Select	Mic、Line	Line	✓	✓
Input Gain		Mode = Mic時 : +0.25dB、 Mode = Line時 : +0.5dB	0.5dB (Mode = Line Defaultのため)	✓	✓	-
4 Band EQ		On、Off	Off	✓	✓	✓
CH Name		(最大10文字まで)	Analog In	✓	✓	-
Level		$-\infty$ 、-120.0dB~10.0dB	0.0dB	✓	✓	✓
Phantom		On、Off	Off	-	-	✓
Auto Mix	CH Name	(最大10文字まで)	Auto Mix	✓	✓	-
	CH Mute	On、Off	Off	✓	✓	-
	Level	$-\infty$ 、-120.0dB~10.0dB	0.0dB	✓	✓	✓
Analog Output	CH Name	(最大10文字まで)	Analog Out	✓	✓	-
	Unity	+4dBu、-10dBV、-33dBV	+4dBu	✓	✓	✓
	Level	$-\infty$ 、-120.0dB~10.0dB	0.0dB	✓	✓	✓
	CH Mute	On、Off	Off	✓	✓	-
Voice Lift	Input Gain	0dB~30dB	0dB	✓	✓	✓
	4 Band EQ	On、Off	On	✓	✓	✓
	CH Name	(最大10文字まで)	Voice Lift	✓	✓	-
	CH Color	グリーン、イエロー、ブラウン、レッド、ピンク、ブルー、グレー、ダークグレー	グレー	✓	✓	-
	Level	$-\infty$ 、-120.0dB~10.0dB	0.0dB	✓	✓	✓

機能一覧

項目名		設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム	Web Remote	
	CH Mute	On、Off	Off	✓	✓	-	
Auto Mix ^[2]	Enabled	On、Off	Off	✓	✓	✓	
	Weight	-15.0~15.0	0.0	✓	✓	-	
Gain Share Mode		Stand Alone、Link	Stand Alone	✓	✓	-	
4 Band EQ ^[3]	Mode Change	Easy Mode、Expert Mode	Expert Mode	-	✓	-	
	Easy Mode	Type Select	High、Mid、Low	Mid	✓	✓	-
		Tone	Warm、Warm-1、Warm-2、Warm-3、Warm-4、Warm-5、Warm-6、Neutral、Bright-6、Bright-5、Bright-4、Bright-3、Bright-2、Bright-1、Bright	Neutral	✓	✓	-
	Expert Mode	Band#1 Frequency	20Hz~20000Hz	25	✓	✓	-
		Band#1 Gain	-18dB~+18dB	0	✓	✓	-
		Band#1 Q value	0.3~60	0.75	✓	✓	-
		Band#1 Filter type	HPF、LSH、PEQ	PEQ	✓	✓	-
		Band#2 Frequency	20Hz~20000Hz	63Hz	✓	✓	-
		Band#2 Gain	-18dB~+18dB	0dB	✓	✓	-
		Band#2 Q value	0.3~60	0.75	✓	✓	-
Band#3 Frequency		20Hz~20000Hz	6300Hz	✓	✓	-	
Band#3 Gain		-18dB~+18dB	0dB	✓	✓	-	
Band#3 Q value		0.3~60	0.75	✓	✓	-	
Band#4 Frequency	20Hz~20000Hz	16000Hz	✓	✓	-		

機能一覧

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム	Web Remote
		Band#4 Gain	-18dB~+18dB	0dB	✓	✓	-
		Band#4 Q value	0.3~60	0.75	✓	✓	-
		Band#4 Filter type	LPF、HSH、PEQ	PEQ	✓	✓	-
AEC	AEC		On、Off	Off	✓	✓	✓
	AEC Reference		Analog Input、Digital Input	Analog Input	✓	✓	✓
	NLP		On、Off	Off	✓	✓	-
	NLP Sensitivity		Low、Mid、High	Mid	✓	✓	-
NC	NC		On、Off	Off	✓	✓	✓
	NC Attenuation Level		0~20	6	✓	✓	-
AGC	AGC		On、Off	Off	✓	✓	✓
	Target Level		-10~10	0	✓	✓	-

[1] ATND1061DANのみ表示されます。

[2] Coverage、Priority 1~Priority 5で個別に設定できます。

[3] Coverage、Priority 1~Priority 5、Analog Inputで個別に設定できます。

トラブルシューティング

マイクロホンに問題が発生した場合は、次を確認してください。また、取扱説明書 -Digital Microphone Manager編-も併せて確認してください。

- マイクロホンの接続が正しいか確認してください。
- 取扱説明書に記載されているとおりに、マイクロホンを運用しているか確認してください。
- 外部機器が正しく動作しているか確認してください。マイクロホンに接続していない状態で確認してください。
- ネットワーク機器を再起動してください。

② 電源が入らない

- マイクロホン背面のネットワークA端子とPoE対応スイッチングハブがLANケーブルできちんと接続されているか確認してください。(ATND1061DANのみ)
- PoE対応スイッチングハブが正しく動作しているか確認してください。(ATND1061DANのみ)
- ATLK-EXT25に電源供給がされているか確認してください。(ATND1061LKのみ)
- LANケーブルはCAT5e以上、導体サイズ24AWGの径以上、シールド付きを使用しているか確認してください。

③ Digital Microphone Managerまたはウェブリモートでマイクロホンを認識できない

- マイクロホンとパソコンを同じネットワークに接続しているか確認してください。
- ファイアウォールの設定を見直してください。
- Digital Microphone Managerまたはウェブリモートで「Allow Discovery」>「Enabled」を「ON」に設定しているか確認してください。

④ ネットワーク上でマイクロホンが見つからない

- マイクロホンのファームウェアVer.1.3.0以降で、ネットワーク接続の安定性を向上する目的で、SSDPポート番号を「51000」～「51255」の間からマイクロホンごとの値を取る仕様に変更しています。Ver.1.3.0より前では、固定値「51234」を使用しています。ネットワーク上の設定やファイアウォールで通信ポートの制限を設定している場合に影響を受ける可能性があります。お使いの環境のネットワーク設定で確認してください。

⑤ Dante Controllerでマイクロホンを認識できない (ATND1061DANのみ)

- Digital Microphone Managerで「Dante Network Configuration」>「Mode」の設定が正しいか確認してください。
- マイクロホン背面のネットワークA端子に接続しているDanteオーディオと接続先のDante機器を同じネットワークに接続しているか確認してください。

トラブルシューティング

① マイクロホンの音が出ない

- Dante Controllerでビーム出力（Danteトランスミッター）が出力先機器のDanteレシーバーに正しくルーティングされているか確認してください。（ATND1061DANのみ）
- Digital Microphone Managerでエクスクルージョン（収音除外）ゾーンに設定していないか確認してください。
- Digital Microphone Managerのオーディオ設定で音声入出力レベルが「-∞」（最小値）になっていないか確認してください。
- 各ビームチャンネルがミュートの状態になっていないか確認してください。
- Auto Mixチャンネルを出力に使用している場合、Digital Microphone Managerの各ビームチャンネルのオートミックスの設定が正しいか確認してください。

② アナログ出力から音が出ない

- マイクロホン背面のアナログ入力端子とアナログ出力端子の接続が正しいか確認してください。
- マイクロホン背面のアナログ入力端子とアナログ出力端子のピンアサインが正しいか確認してください。

③ 音がおかしい

- Digital Microphone Managerのビーム設定で目的のゾーンを有効範囲に設定しているか確認してください。
- Digital Microphone Managerの4バンドEQの設定が正しいか確認してください。
- 部屋に対してマイクロホンの位置・方向が正しいか確認してください。

④ インジケーターが点灯しない

- Digital Microphone Managerで「LED Settings」をブラック（点灯なし）に設定していないか確認してください。

⑤ AECが機能しない

- Digital Microphone Managerまたはウェブリモートで「AEC」>「AEC Reference」の設定が正しいか確認してください。
- DanteオーディオルーティングでマイクロホンのDanteレシーバーの「AEC Ref In」に遠端の音声が入力されているか確認してください。（ATND1061DANのみ）

トラブルシューティング

① プリセット設定が複数台のマイクロホン間で同期しない

- Digital Microphone Managerで、すべてのマイクロホンに対して「General」>「Command Link」>「Preset Link」を「ON」に設定しているか確認してください。

② 赤外線リモコンで操作できない

- 電池の＋の向きが正しいか確認してください。
- 電池が消耗していないか確認してください。消耗している場合は、新しい電池に交換してください。
- Digital Microphone Managerで「IR Receiver」>「Allow Control」を「ON」に設定しているか確認してください。

③ IPコントロールができない

- マイクロホンとパソコンを同じネットワークに接続しているか確認してください。
- IPコントロールで使用するポートNo.が正しいか確認してください。

④ IPコントロールの通知がこない

- Digital Microphone Managerまたはウェブリモートで「IP Control Settings」>「Notification」を「ON」に設定しているか確認してください。

⑤ カメラが動かない

- マイクロホンのインジケーターがレッド色点滅（2秒間隔）している場合は、通信ができていません。カメラの電源がONになっているか確認してください。また、マイクロホンとカメラを同じネットワークに接続しているか確認してください。
- マイクロホンのインジケーターがレッド色点滅（2秒間隔）していないのにカメラが動かない場合は、カメラエリアとカメラプリセットを正しく設定しているか確認してください。またDigital Microphone Managerまたはウェブリモートで「Camera」>「Enabled」を「ON」に設定しているか確認してください。

⑥ Digital Microphone Managerで項目がグレーアウトされていて操作できない

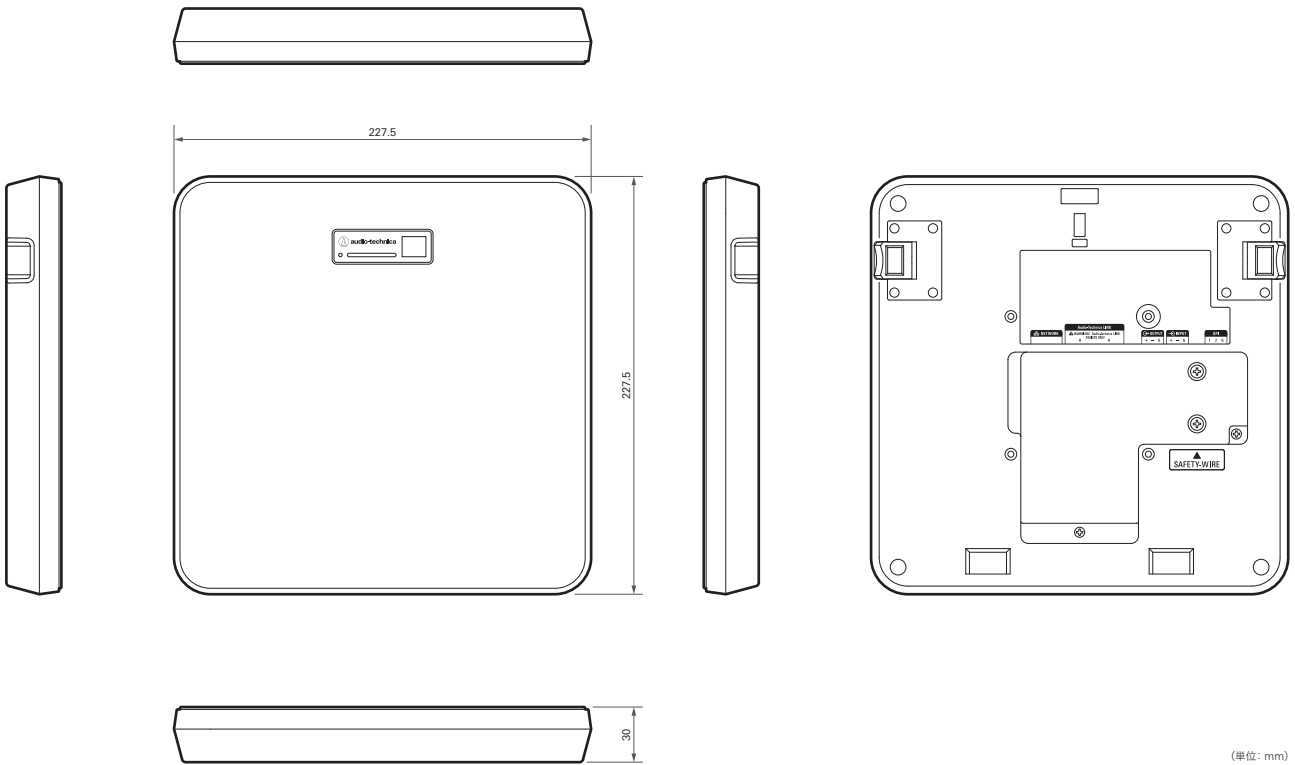
- 最新のDigital Microphone Managerと古いバージョンのマイクロホンを接続した場合、対応していない項目がグレーアウトし、操作できない場合があります。マイクロホンを最新のファームウェアにアップグレードしてご使用ください。

① VISCA over IPを使用中にポート番号が勝手に「80」になってしまう

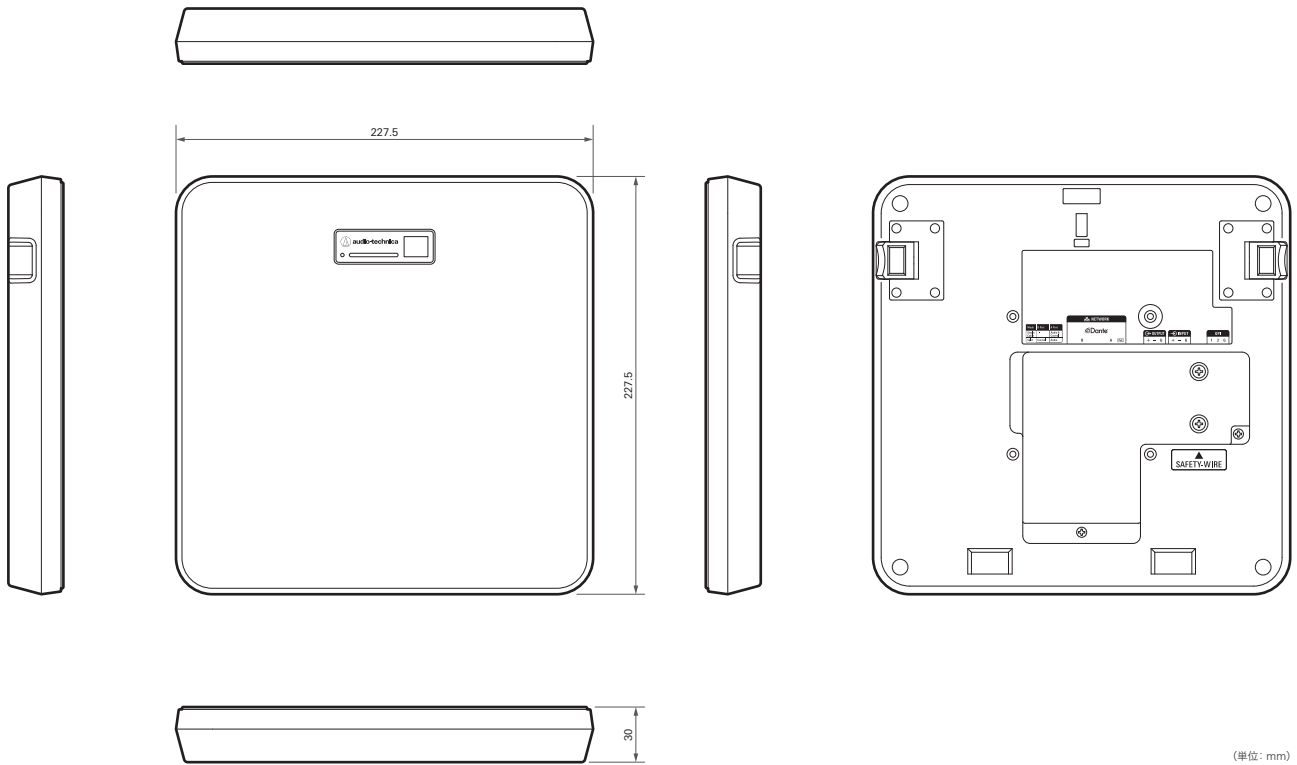
- ファームウェアアップデート後にマイクロホンをリセットしなかった場合、VISCA over IPでカメラ連動機能を使用しているとポート番号が「80」になってしまう場合があります。その場合は、ポート番号を設定し直してください。

外形寸法図

ATND1061LK

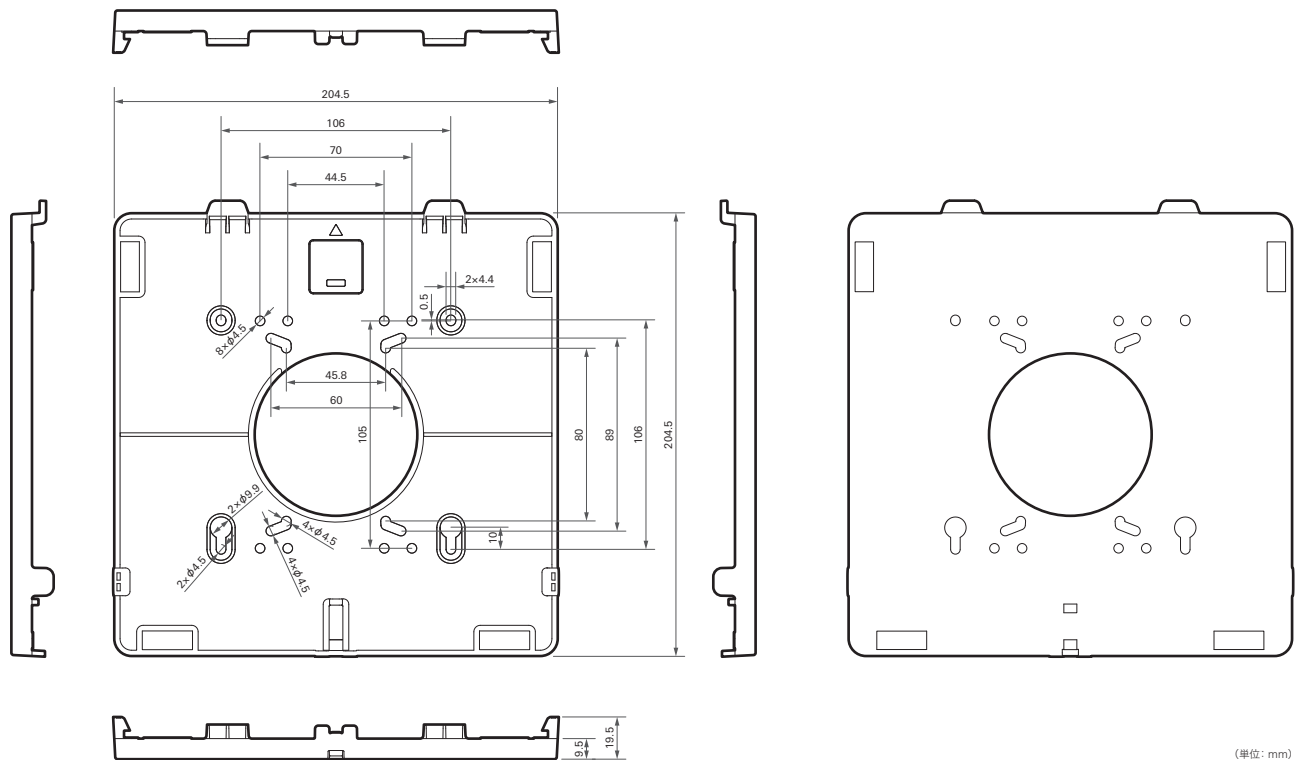


ATND1061DAN

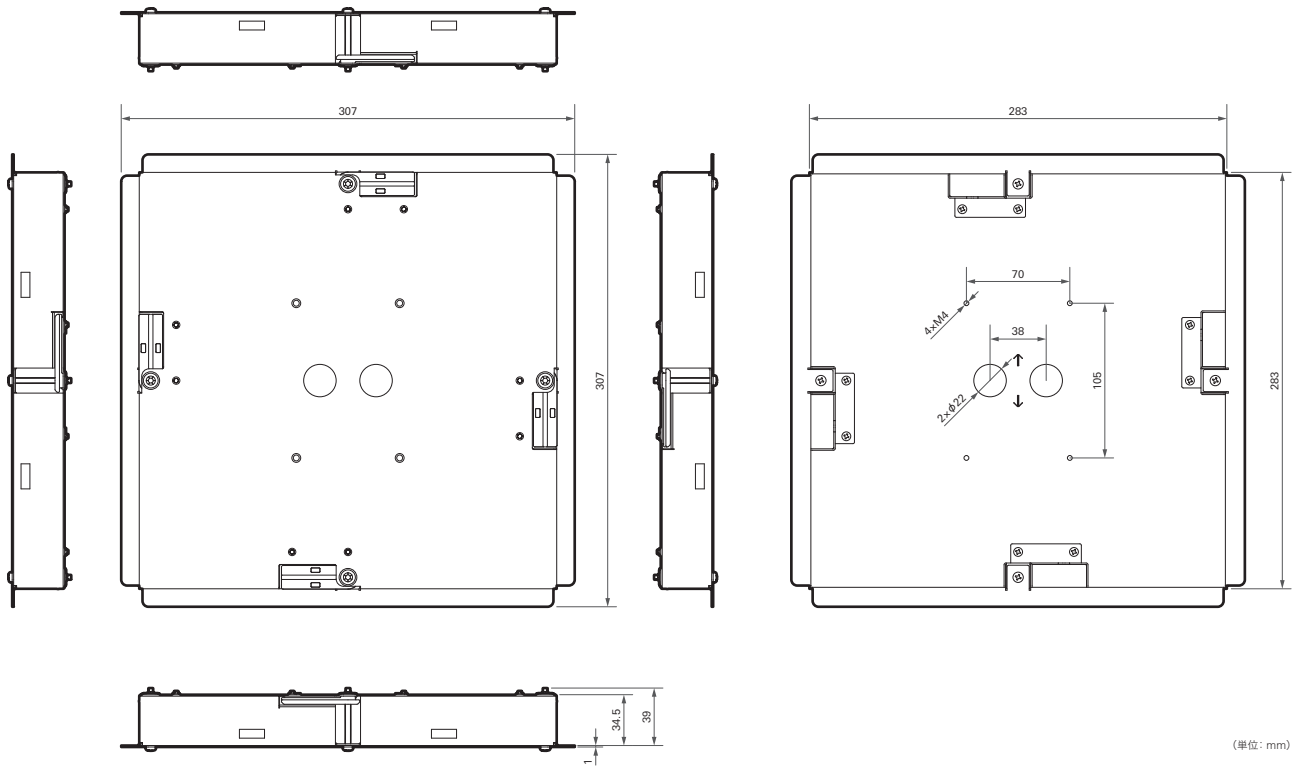


(単位: mm)

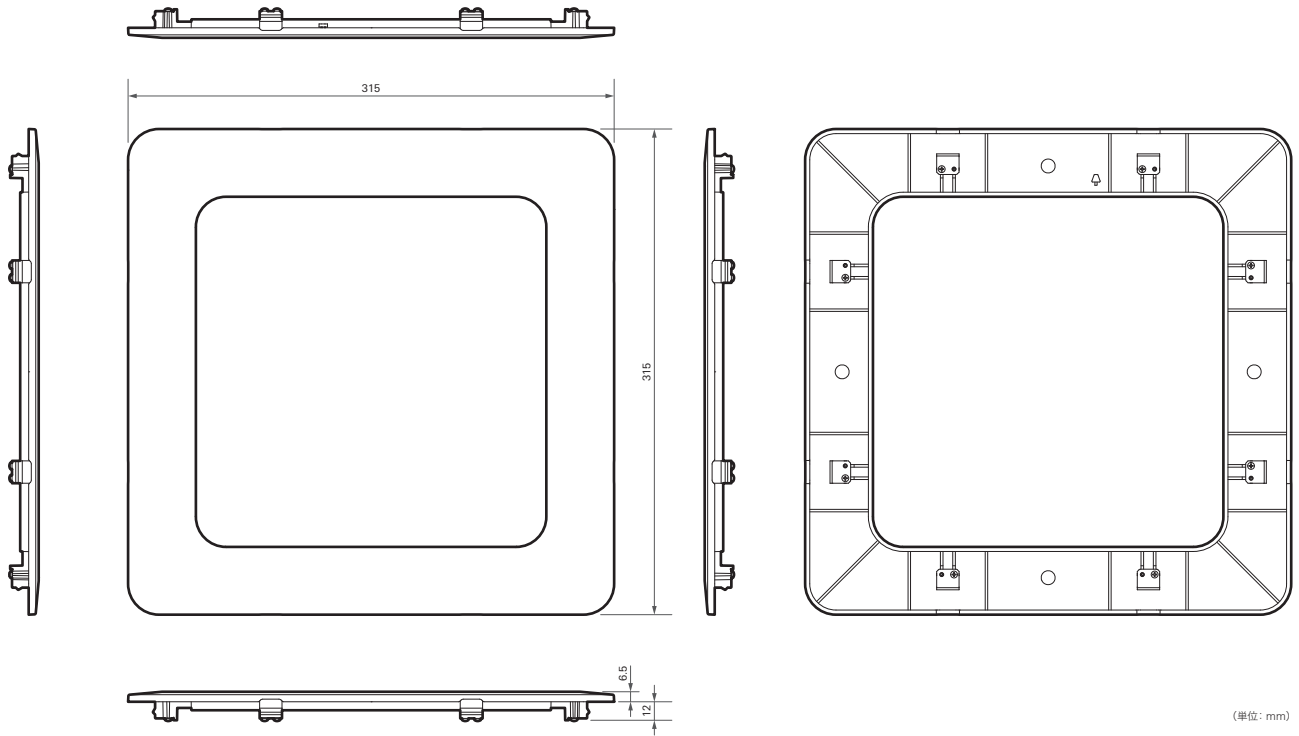
サーフェスマウントアダプター



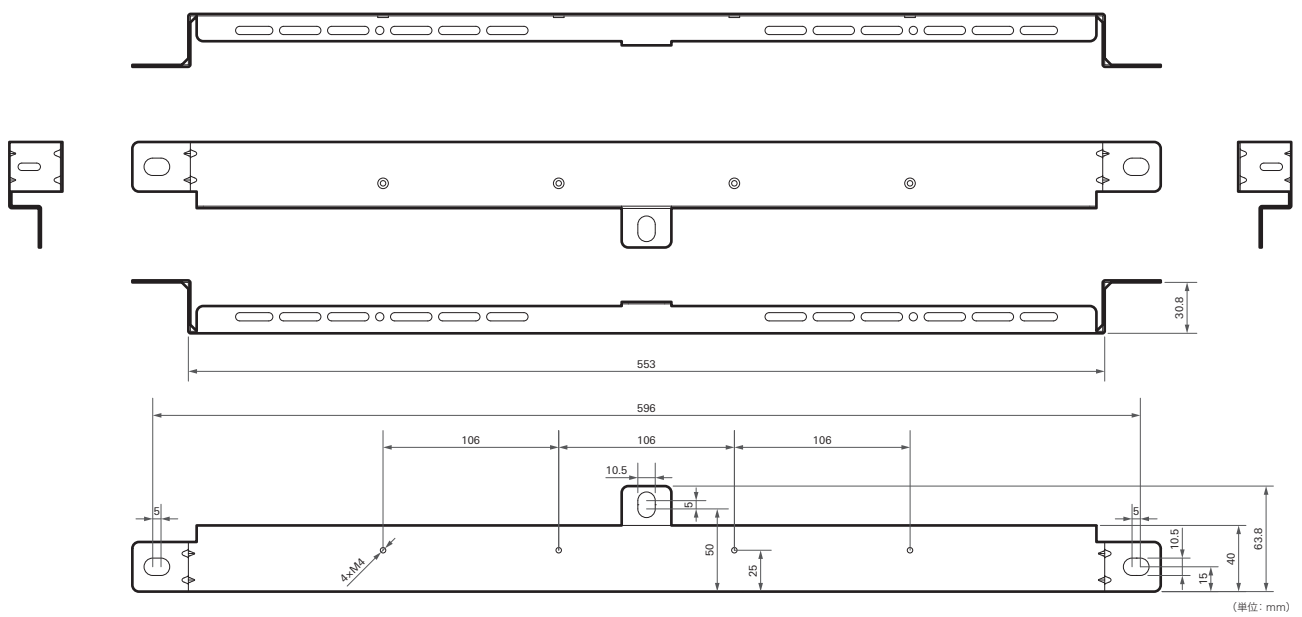
フラッシュマウントアダプター



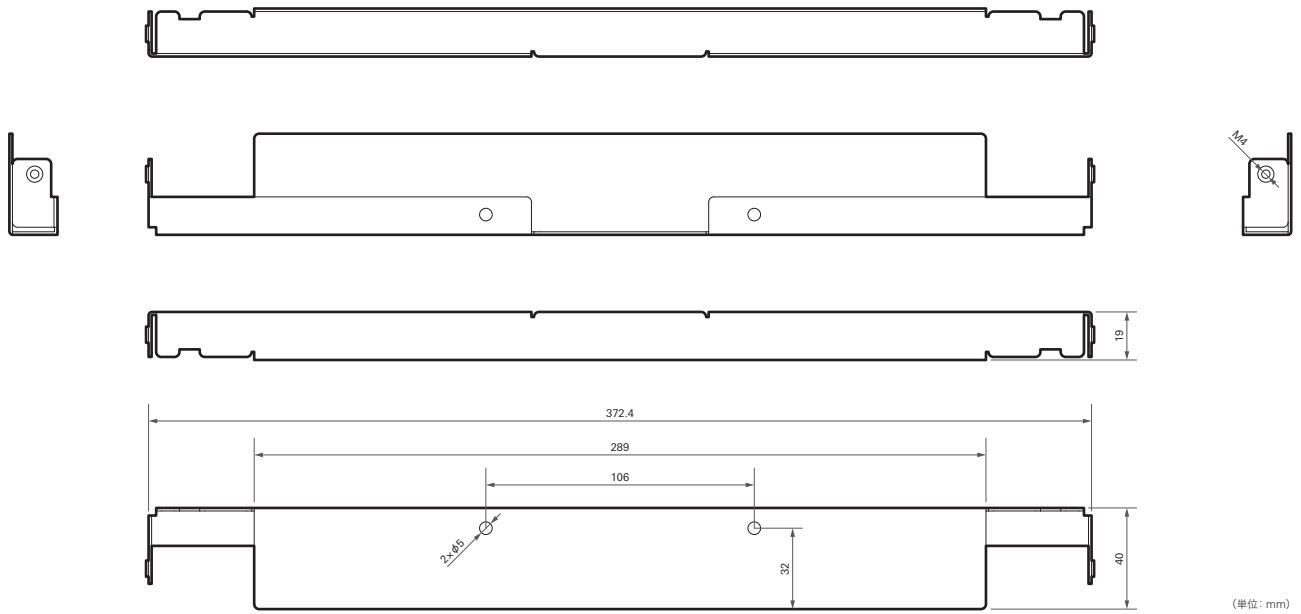
フラッシュマウントカバー



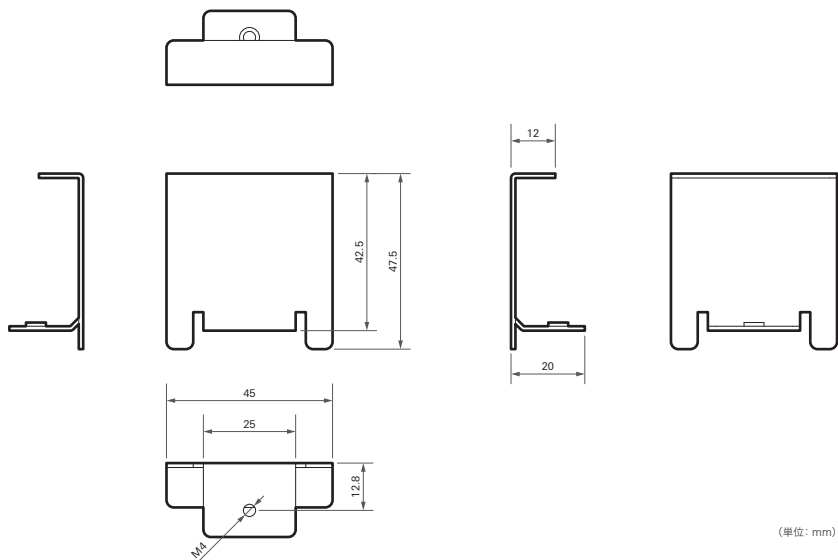
タイルブリッジA



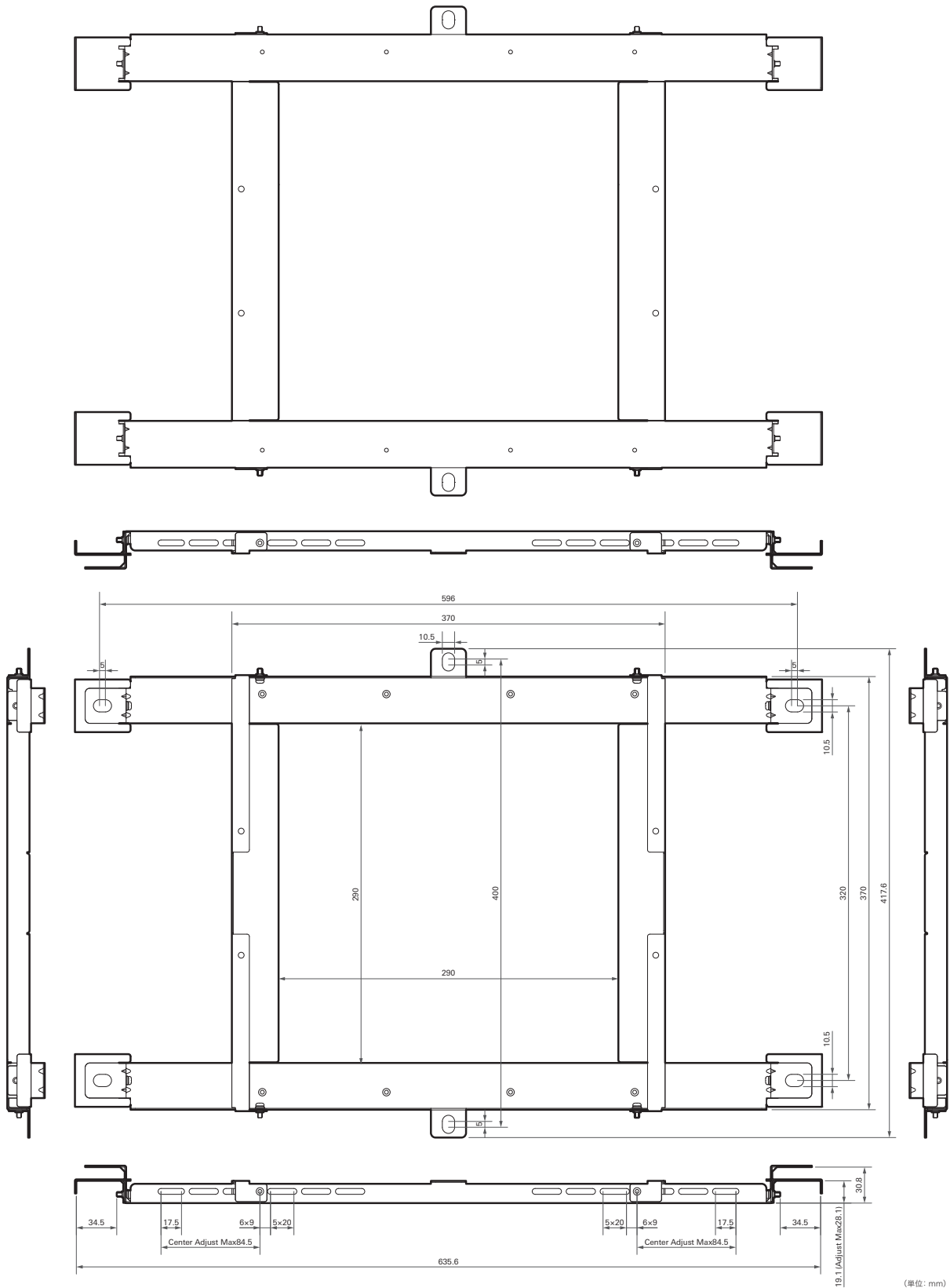
タイルブリッジB



タイルブリッジC



グリッド天井用のタイルブリッジ組立図



(単位: mm)

テクニカルデータ

ATND1061LK

一般仕様

電源	DC+48V (Audio-Technica LINK)
消費電力	最大5.2W
動作温度範囲	0°C~40°C
動作湿度範囲	25%~85% (結露なきこと)
外形寸法	227.5mm×227.5mm×30mm (W×D×H)
質量	1,243g
プレナム定格	UL 2043

マイクロホン

ビーム幅	90°
指向特性	ビームパターン
周波数特性	60Hz~18,000Hz
感度	-8dBFS (1kHz、94dBSPL)
ダイナミックレンジ	89dB (A-weighted)
S/N比	61.5dB (A-weighted)
セルフノイズ	25dBSPL (A-weighted)
最大入力音圧レベル	102dBSPL

アナログオーディオ

周波数特性	20Hz~20kHz (+1.0/-2.0dB)
ダイナミックレンジ	100dB (A-weighted)
S/N比	80dB (A-weighted)
ヘッドルーム	20dB
残留雑音	-75.8dBu (A-weighted)
全高調波歪率	<0.1% (1kHz、ユニティ)
アナログ入力	MIC最大：-30dBu MICユニティ：-50dBu LINE最大：+12.2dBu LINEユニティ：-10dBV、Switchable
アナログ出力	OUTPUT最大：+19.2dBu OUTPUTユニティ：+4dBu/-10dBV/-33dBV、Switchable

テクニカルデータ

その他

ネットワーク	Audio-Technica Link : 100Mbps IPコントロール : 100Mbps
デジタルオーディオ	サンプリング周波数 : 48kHz ビット深度 : 24bit
遅延	マイクロホン (CH1~CH6) : 18msec マイクロホン (ボイスリフトモード時オートミックスCH) : 33msec マイクロホン (AECモード時オートミックスCH) : 50msec
I/Oコネクタ	ネットワーク/Audio-Technica Link : RJ-45 アナログ入力 : ユーロブロック3ピン アナログ出力 : ユーロブロック3ピン GPI : ユーロブロック3ピン
ファントム電源	アナログ入力 : 12V
付属品	赤外線リモコン サーフェスマウントアダプター ねじ (M4×50mm) ×4 フラッシュマウントアダプター フラッシュマウントカバー ねじ (M4×10mm) ×12 ホールカバー ナット×4 配線保護ブッシュ×2 タイルブリッジA×2 タイルブリッジB×2 タイルブリッジC×4 落下防止ワイヤー 結束バンド 安全ベルト ユーロブロックコネクタ×3 施工用型紙

- 改良などのため予告なく変更することがあります。

ATND1061DAN

一般仕様

電源	PoE (IEEE 802.3af Class 0)
消費電力	最大7W
動作温度範囲	0°C~40°C
動作湿度範囲	25%~85% (結露なきこと)
外形寸法	227.5mm × 227.5mm × 30mm (W×D×H)
質量	1,250g
プレナム定格	UL 2043

テクニカルデータ

マイクロホン

ビーム幅	90°
指向特性	ビームパターン
周波数特性	60Hz~18,000Hz
感度	-8dBFS (1kHz、94dBSPL)
ダイナミックレンジ	89dB (A-weighted)
S/N比	61.5dB (A-weighted)
セルフノイズ	25dBSPL (A-weighted)
最大入力音圧レベル	102dBSPL

アナログオーディオ

周波数特性	20Hz~20kHz (+1.0/-2.0dB)
ダイナミックレンジ	100dB (A-weighted)
S/N比	80dB (A-weighted)
ヘッドルーム	20dB
残留雑音	-75.8dBu (A-weighted)
全高調波歪率	<0.1% (1kHz、ユニティ)
アナログ入力	MIC最大：-30dBu MICユニティ：-50dBu LINE最大：+12.2dBu LINEユニティ：-10dBV、Switchable
アナログ出力	OUTPUT最大：+19.2dBu OUTPUTユニティ：+4dBu/-10dBV/-33dBV、Switchable

テクニカルデータ

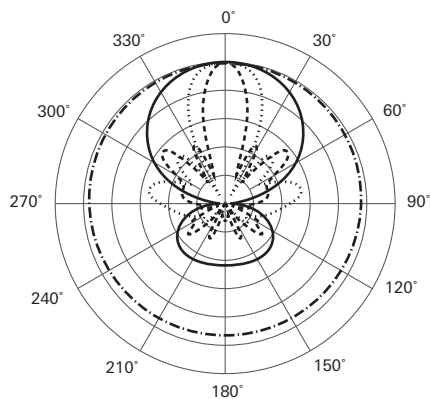
その他

ネットワーク	Dante : 1Gbps IPコントロール : 100Mbps
デジタルオーディオ	サンプリング周波数 : 48kHz ビット深度 : 24bit
遅延	マイクロホン (CH1~CH6) : 18msec マイクロホン (ボイスリフトモード時オートミックスCH) : 33msec マイクロホン (AECモード時オートミックスCH) : 50msec Dante : 最小250usec、最大5msec
I/Oコネクタ	ネットワーク/Dante : RJ-45 アナログ入力 : ユーロブロック3ピン アナログ出力 : ユーロブロック3ピン GPI : ユーロブロック3ピン
ファントム電源	アナログ入力 : 12V
付属品	赤外線リモコン サーフェスマウントアダプター ねじ (M4×50mm) ×4 フラッシュマウントアダプター フラッシュマウントカバー ねじ (M4×10mm) ×12 ホールカバー ナット×4 配線保護ブッシュ×2 タイルブリッジA×2 タイルブリッジB×2 タイルブリッジC×4 落下防止ワイヤー 結束バンド 安全ベルト ユーロブロックコネクタ×3 施工用型紙

- 改良などのため予告なく変更することがあります。

指向特性 / 周波数特性

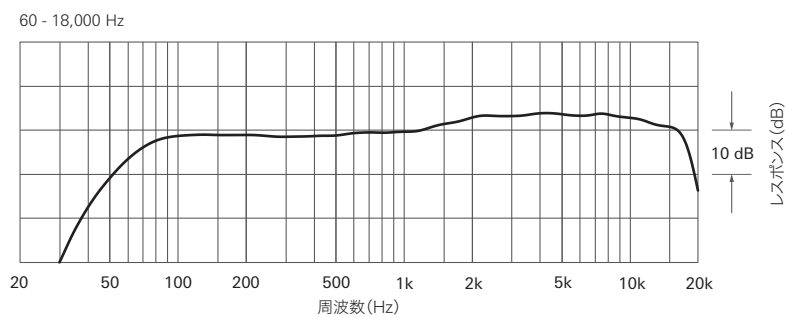
指向特性



凡例

-----	200 Hz	音圧スケールは1目盛5dB
—————	1 kHz	
.....	5 kHz	
- · - · - ·	8 kHz	

周波数特性



凡例

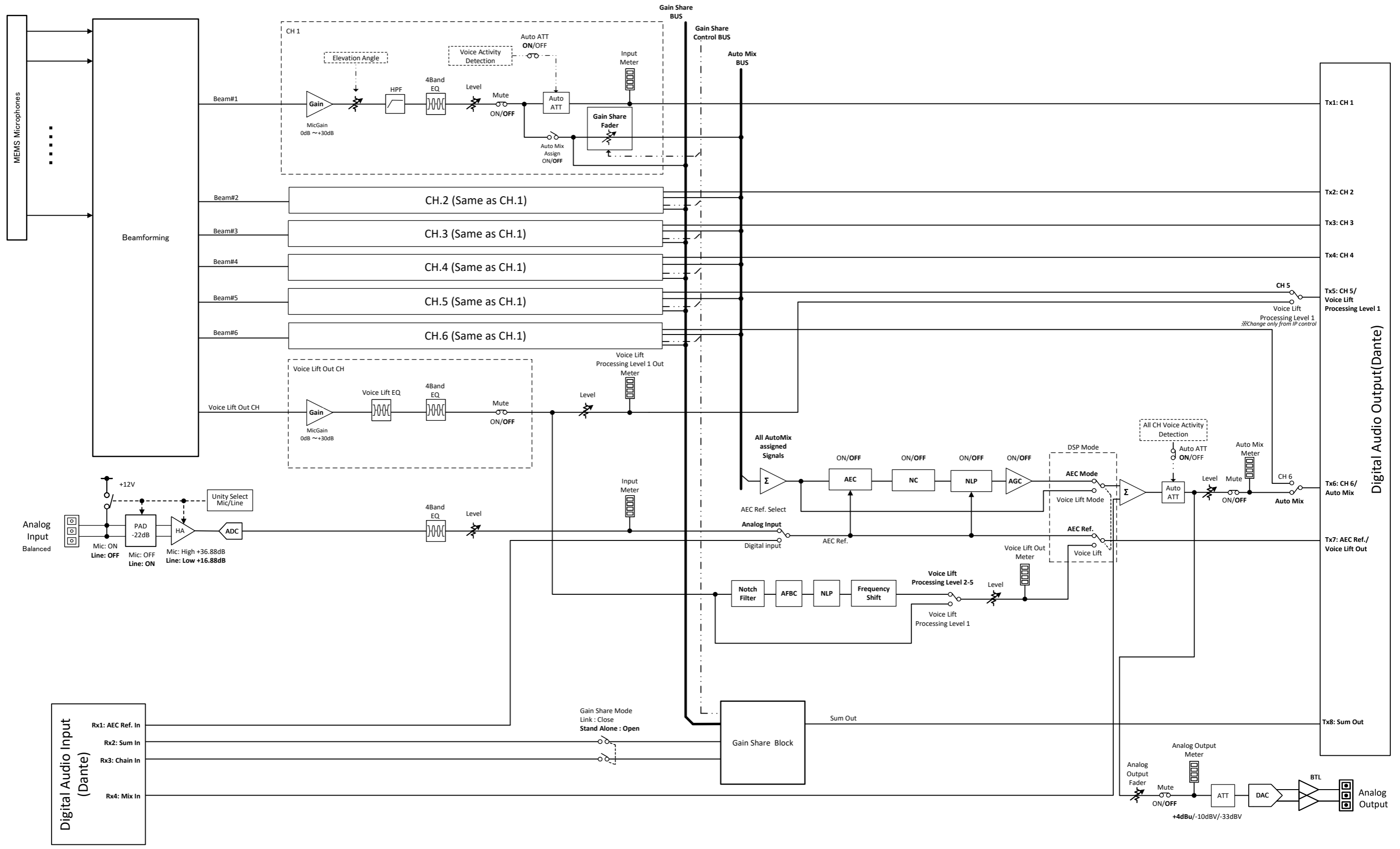
—————	0°, 50cm
-------	----------

商標について

- Microsoft®、Windows®は、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
- WindowsはMicrosoft Windows operating systemの略称として表記しています。
- macOS、Safariは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- Google Chrome は Google LLC の商標です。
- Firefox is a trademark of the Mozilla Foundation in the U.S. and other countries.
- その他、本書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

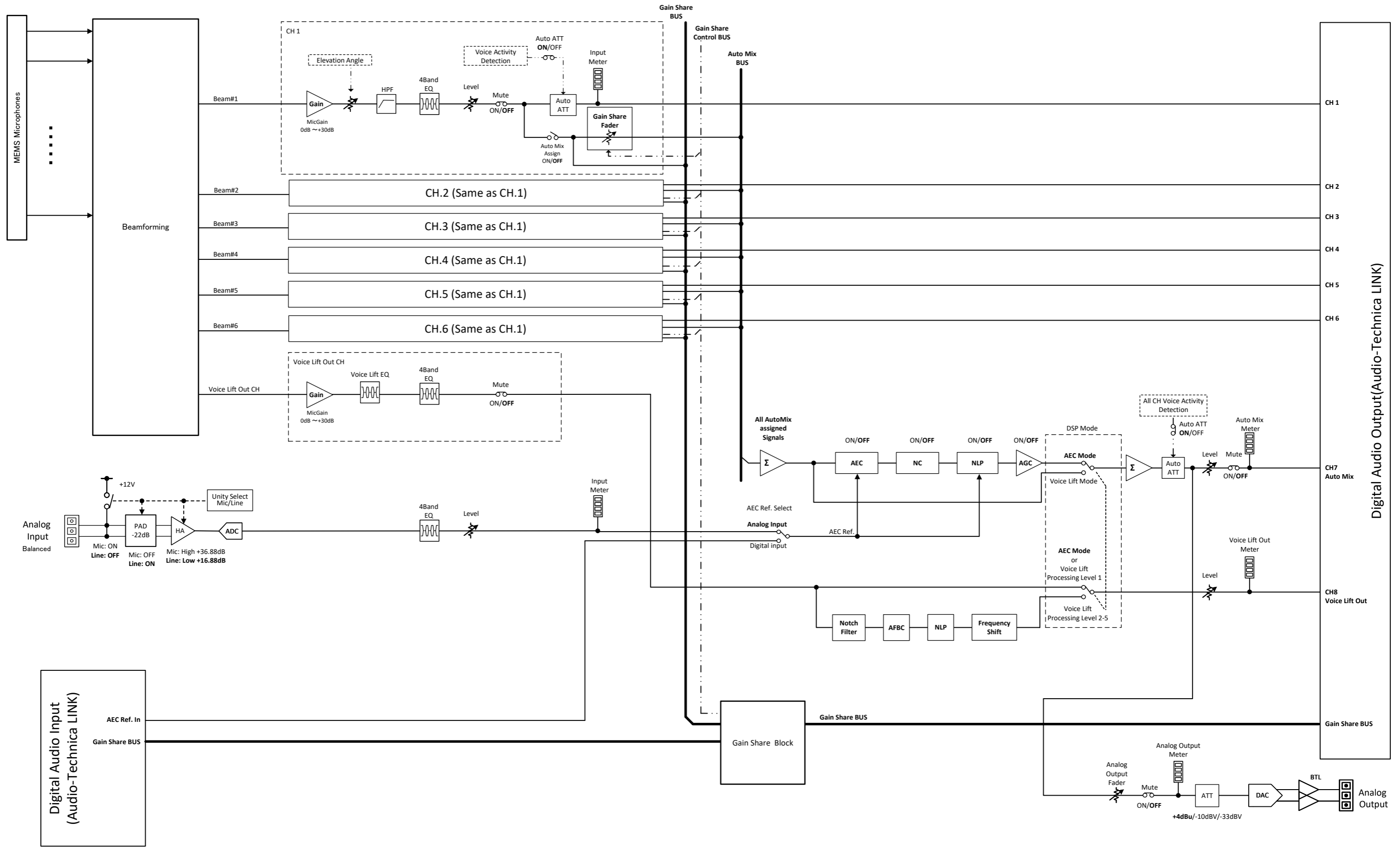
Audio-Technica Beamforming Array Microphone ATND1061DAN Signal Diagram

→ Audio data
→ Control data



Audio-Technica Beamforming Array Microphone ATND1061LK Signal Diagram

————> Audio data
- - - - -> Control data



Digital Audio Output(Audio-Technica LINK)

株式会社オーディオテクニカ

〒194-8666 東京都町田市西成瀬2-46-1
www.audio-technica.co.jp

Audio-Technica Corporation

2-46-1 Nishi-naruse, Machida, Tokyo 194-8666, Japan
www.audio-technica.com
©2024 Audio-Technica Corporation
Global Support Contact: www.at-globalsupport.com

142700180-01-07 ver.1 2022.02.01
ver.7 2024.11.15